

令和3年度 北海道国語教育連盟 常任委員会 次第

令和3年5月15日(土) 13:00～ ONLINE (Zoom) 開催

司会 村上 智樹 事務局次長

1. 開会の言葉 木村 佳子 副委員長
2. 委員長挨拶(委員長委嘱人事を含む) 大田 利幸 委員長
3. 自己紹介 委員長→副委員長→常任委員→事務局→会計局→各部
4. 令和2年度の活動報告(事業報告)及び第75回十勝・帯広大会報告

	横道 幸紀	事務局長
	白井 将之	常任委員
5. 令和2年度の会計決算・監査報告

	西村 裕子	会計局長
	渡部 浩士	常任委員
6. 協議事項
 - (1) 令和3年度事業(活動)計画

①事務局	②会計局	③庶務部	④研究部	⑤情報部	⑥小中学部
------	------	------	------	------	-------
 - (2) 令和3年度予算案 西村 裕子 会計局長
 - (3) 第76回上川・旭川大会について

大会について	神林 宏行	上川旭川大会運営委員長
研究主題解説	中島 大輔	連盟研究部長
大会会員総会について	村上 智樹	事務局次長
 - (4) 第77回釧路大会について 松岡 伸之 釧路大会運営委員長 他
 - (5) 第78回大会以降の開催地について 横道 幸紀 事務局長

R05 第78回空知大会	R06 第79回函館大会	
R07 第80回札幌大会	R08 第81回オホーツク大会	
R09 第82回上川・旭川大会	R10 第83回十勝・帯広大会	
 - (6) 研究交流(各地区の動向) 各地区より

函館→石狩→空知→オホーツク→札幌→十勝・帯広
副委員長もしくは地区委員(常任委員も可)
上川・旭川と釧路は(3)(4)でお話いただくので省略
 - (7) 役員選考結果報告 猪股 嘉洋 選考委員長
 - (8) その他

・会費納入について	小菅 猛雄	会計局次長
-----------	-------	-------
7. 新旧役員挨拶
 - (1) 旧役員挨拶
 - (2) 新役員挨拶 ※まとめて大田委員長が挨拶
8. 顧問委嘱 大田 利幸 委員長
9. 感謝状贈呈 大田 利幸 委員長
10. 諸連絡 村上 智樹 事務局次長
11. 閉会の言葉 紺野 克典 副委員長

令和3年度 委員長委嘱人事【常任委員・事務局・会計局他】

委 嘱 名		氏 名	所 属	継/新
常任委員 15名	常任委員	鈴木 洋伸	旭川:永山中・校長	継
	〃	山田 顕次	上川:下川小・教頭	〃
	〃	野口 育子	釧路:標茶小・校長	〃
	〃	太田 諭	釧路:中茶安別小中・教頭	〃
	〃	山本 良子	函館:亀田小・校長	〃
	〃	秋山 康則	オホーツク:湧別小	新
	〃	中嶋 利啓	空知:音江小・校長	新
	〃	白井 将之	十勝:忠類中・校長	継
	〃	嶋 健	帯広:八千代中・校長	新
	〃	猪股 嘉洋	札幌:新陵小・校長	継
	〃	紺野 宏子	札幌:中央小・校長	新
	〃	岡田 一伸	札幌:本郷小・校長	新
	〃	渡部 浩士	札幌:新川西中・校長	継
	〃	金田 昭孝	札幌:陵陽中・校長	新
	〃	市川 恵幸	札幌:厚別南中・校長	新
事務局 4名	事務局次長(局長補佐)	村上 智樹	札幌:幌西小	継
	事務局次長	田中 義直	札幌:発寒南小	〃
	〃	唐澤 俊樹	札幌:手稲鉄北小	〃
	〃	亀田 和人	札幌:八軒小	〃
会計局	会計局次長	新津 智哉	札幌:西陵中	新

委 嘱 名		氏 名	所 属	継/新
各部 12名	庶務部 部長	齊藤 優太	北光小	新
	副部長	守屋 洋佑	山鼻小	〃
	〃	石川 容子	八軒東中	〃
	研究部 部長	中島 大輔	附属札幌小	継
	副部長	後藤 卓	幌南小	〃
	〃	鈴木真之介	附属札幌中	〃
	情報部 部長	紺野 翔太	新琴似中	〃
	副部長	伊藤健士郎	明園小	〃
	〃	笹山 和也	新琴似中	新
	小中学部 部長	新井 拓	附属札幌中	継
	副部長	黒澤 英靖	附属札幌小	〃
	副部長	佐々木康平	厚別中	〃
新 地区委員	オホーツク地区	吉崎紘一郎	網走:網走小	新
	石狩地区(中)	本間 幹英	石狩:花川中	〃
	小樽地区	岡本 清豪	小樽:北陵中 校長	〃

令和2年度 北海道国語教育連盟 事業報告

2021/05/15
常任委員会

月	事業	備考
4	異動状況の把握、委嘱状の作成・発送 事務局会 4/7(陵北中) 正副部長会(書面開催) 拡大委員会(書面開催)	
5	事務局会・正副部長会(書面開催) 連盟役員会・常任委員会(書面開催) 懇親会(中止) 全中国研理事会(中止)	
6	全小国研理事会(中止) 札幌の夕べ(中止) 第1回オンライン研修会6/27	
7	第2回オンライン研修会7/4 第3回オンライン研修会7/11 『「話すこと・聞くこと」指導読本～小学校編～発行7/14	
9	事務局会・正副部長会 9/7(陵北中) 第4回オンライン研修会9/12 第5回オンライン研修会9/19	
11	北方領土中学生作文コンクール 事前審査 事務局会・正副部長会(書面実施)	
12	北方領土中学生作文コンクール選考会	
1	令和2年度冬の学習会1/30(リモート開催)	
2	事務局会・正副部長会 2/15(リモート開催)	
3		

<後援事業>

- ① 第36回 留萌地方国語教育研究大会天塩大会(中止)
- ② 第73回 北海道書写書道教育研究大会上川・旭川大会

<協賛(広告)>

- ① 北海道通信社

<協力>

- ① 第32回読書感想画コンクール 第8回読書感想画全道コンクール(主催 毎日新聞社)
- ② 「北方領土」中学生作文コンクール(主催 北海道庁)

令和2年度 北海道国語教育連盟 一般会計 決算

1 収入

(単位:円)

項目	R2補正予算額	決算額	残額	内 訳
繰越金	532,093	532,093	0	
会 費	660,000	678,000	18,000	3,000×226
協賛金	0	0	0	
学習会	0	0	0	
基金補助	0	0	0	
雑収入		157	157	銀行利息 分担金手数料払い戻し152円
計	1,192,093	1,210,250	18,157	

2 支出

(単位:円)

項目	R2補正予算額	決算額	残額	主な内訳	
事務局費	役員会費	10,000	6,600	3,400	名刺
	常任委員会費	10,000	0	10,000	
	事務局会・正副部長会費	10,000	10,000	0	会場費
	事務用品費	80,000	7,544	72,456	封筒、ラベル他
	通信・渉外費	100,000	48,696	51,304	発送費(大会冊子送料等)
	各種旅費補助	70,000	0	70,000	
	講師派遣費	40,000	5,250	34,750	冬の学習代会食代として
各部活動費	会計局	45,000	0	45,000	
	庶務部	25,000	0	25,000	各種案内、委嘱状発送
	情報部	200,000	79,272	120,728	機関紙印刷・発送、ドメイン変更
	研究部	20,000	0	20,000	
	小学部 中学部	30,000	0	30,000	
事業	学習会	0	0	0	
その他	分担金	40,798	40,964	-166	全小・全中国研分担金+手数料
	広告費	70,000	66,000	4,000	北海道通信広告掲載
	研究大会補助金	260,000	260,000	0	開催地補助、研究集録印刷費補助
予備費	181,305	0	181,305		
計	1,192,103	524,326	667,777		

収入決算額 1,210,250
 支出決算額 524,326
 差引残額 685,924

【次年度へ繰越 685,924円】

令和3年3月31日
 以上のように決算いたしました。

監査の結果相違ありません。

会計局長

西村 裕子



会計監査(常任委員)

猪股 嘉洋



渡部 浩士



令和3年度 北海道国語教育連盟 全体事業計画（案）

事務局長 横道幸紀

1. はじめに

本連盟は全国の国語科教育の動向に目を向けつつ、全道各地で開催する研究大会を軸に道内の国語教育関係者の力を結集し、北海道の児童・生徒の国語力の向上に資することを事業の目的としている。

今年度は、10月8日（金）に、第76回北海道国語教育研究大会上川・旭川大会を開催する。上川・旭川大会では、研究主題「言語活動を通して自らの考えを築き、つながる言葉の力を高める授業の創造」のもと、実践的な研究交流と学習指導要領改訂に向けた活発な研究討議が期待される。

今後も、北海道の国語教育を向上・発展させていくために、学習指導要領に示される国語の目標や内容等について共通理解を図り、児童・生徒の国語力の状況を踏まえた実践的な協同研究を推進していく。

2. 活動の基本方針

- 1) 北海道国語教育研究大会の成功を期し、文科省や道教委、教育関係諸団体との連携を密にするとともに、研究活動の充実に資する情報交流の活性化に努める。
- 2) 講師派遣の要請に積極的に対応するなど、各地区との連携を深めながら、国語教育の振興と充実に努める。
- 3) 新入会員の確保及び会費納入会員の拡充を図るなど組織強化に努める。
- 4) 国語教育に関わる実践資料の収集や国語教育の振興につながる調査活動に努める。
- 5) 国語教育に関わる新鮮な情報の発信に努め、積極的な広報活動に努める。
- 6) 新型コロナウイルスの感染状況から、今できることは何かを的確に判断し、適切な方法で研究を推進する。
- 7) その他

3. 本年度の主な事業内容

- 1) 第76回北海道国語教育研究大会上川・旭川大会の開催
- 2) 全道常任委員会・大会会員総会の開催
- 3) 各種研究大会・研修会への参加及び派遣
- 4) 夏の学習会の開催
- 5) 機関紙及びホームページの充実
- 6) 日常の研究実践資料の収集・提供

【全道大会等の開催地】

平成31年度（第74回）札幌大会	令和7年度（第80回）札幌大会
令和2年度（第75回）十勝・帯広大会	令和8年度（第81回）オホーツク大会
令和3年度（第76回）上川・旭川大会	令和9年度（第82回）上川・旭川大会
令和4年度（第77回）釧路大会	令和10年度（第83回）十勝・帯広大会
令和5年度（第78回）空知大会	
令和6年度（第79回）函館大会	

令和3年度 北海道国語教育連盟 事務局・会計局・各部 年間業務内容一覧

	事務局	会計局	庶務部
4月	<ul style="list-style-type: none"> ○新年度連盟役員・委員名簿の作成と委嘱状の発送 <ul style="list-style-type: none"> ・在札役員会で、役員・事務局・正副部長等を決定 ・事務局と小中学部・庶務部で異動名簿を基にした名簿の作成 ・在札役員で分担し、各委員へ受諾の打診 ・委嘱状の作成及び発送（事務局・庶務部） ○拡大委員会の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・各局及び各部の資料の綴じ込み（事務局・庶務部） ・常任委員会の役割分担や準備手順の確認 ・常任委員会の案内発送（事務局・庶務部） 	<ul style="list-style-type: none"> ※連盟派遣講師・理事会等の旅費 各種配付物郵送費は随時 ※広告料等 ○新規会員勧誘文書の作成 ○会費納入依頼文書の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ○活動計画作成 <ul style="list-style-type: none"> ・拡大委員会、常任委員会等の案内発送 ○委嘱状の作成・発送
5月	<ul style="list-style-type: none"> ○正副部長会・庶務部会の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・常任委員会の資料の綴じ込み ・常任委員会の出欠確認やしおり作成 ・常任委員会の標示物や胸札等の作成状況の確認 ・常任委員会進行の最終確認 ○常任委員会の運営 <ul style="list-style-type: none"> ・会場の設営（受付・机上の名札・一文字等） ・当日の司会 	<ul style="list-style-type: none"> ○会計報告 ○予算立案 ○年間活動計画の作成（常任委員会で提案） <ul style="list-style-type: none"> ・研究大会開催地への補助支給・旅費補助支給 	<ul style="list-style-type: none"> ○常任委員会の準備作業 <ul style="list-style-type: none"> ・資料の帳合、名札、標示物等の作成 ○常任委員会の受付業務
6月	<ul style="list-style-type: none"> ○事務局会・正副部長会の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・全道大会へ向けての準備（大会委嘱状や第2次案内等） 	<ul style="list-style-type: none"> ○郵送の封筒作成 ○会費納入振込用紙作成・郵送による会員募集 	
7・8月	<ul style="list-style-type: none"> ○全道大会参加調査票の発送・第1次集約（対象：在札役員・常任委員・正副部長・部員） ○機関紙等の発送（事務局・庶務部・情報部） 	<ul style="list-style-type: none"> ○全小国研、全中国研負担金の支払い ○機関紙印刷代、郵送代 ○連盟会費納入の案内 	<ul style="list-style-type: none"> ○全道大会参加体制づくり開催 ○全道大会2次案内発送作業
9月	<ul style="list-style-type: none"> ○事務局会・正副部長会の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・大会参加体制確認集約 ・参加要領等の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ○全道大会用会員募集文書の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ○全道大会参加者集約作業 ○機関紙発送作業
10月	<ul style="list-style-type: none"> ○全道大会（上川・旭川 10月8日） <ul style="list-style-type: none"> ・連盟役員会の運営 ・大会会員総会の運営 ・感謝状の準備 ・礼状発送 	<ul style="list-style-type: none"> ○全道大会・会費徴収・各種打合せ等旅費・会員募集 	<ul style="list-style-type: none"> ○全道大会参加者集約
11月	<ul style="list-style-type: none"> ○全小国研 ○全中国研 ○全道大会の事後作業（大会報告・機関紙作成着手） ※全小国研、全中国研、十四大都市中国研等の集約 	<ul style="list-style-type: none"> ○ドメイン名維持料の支払い（連盟HP） ○研究収録作成代補助・郵送代 	
12月	<ul style="list-style-type: none"> ○事務局会・正副部長会の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・事業報告会に向けて ・大会研究集録等の発送 	<ul style="list-style-type: none"> ○会費納入状況の確認・会員募集 	<ul style="list-style-type: none"> ○全道大会研究集録の発送作業
2・3月	<ul style="list-style-type: none"> ○事務局会・正副部長会の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・各局、各部の年間活動計画 ・新年度の活動計画案作成へ向けて 	<ul style="list-style-type: none"> ○年度反省 次年度方針 ○会計業務の集約 ○会計監査 	<ul style="list-style-type: none"> ○活動報告等作成、年度反省

令和3年度 北海道国語教育連盟 事務局・会計局・各部 年間業務内容一覧

	研究部	情報部	小中学部
4月	○活動計画の作成	○業務内容の作成と共通理解	○年間活動計画の作成
5月	○役員会、常任委員会で年間計画・研究主題等の提案 今年度札幌大会での授業・提言内容の提案	○機関紙編集会議 ・ページ割付検討 ・執筆者選定 ○HP 検討会議 ・内容検討、HP 更新	○役員会、常任委員会で年間計画の提案と各地区研究の把握
6月	○各地区との情報交流・学習会	○機関紙編集会議 ・原稿執筆者へ依頼状発送 ・機関紙原稿編集作業開始 ・印刷会社とのスケジュール確認 (会計局との連携) ※HP 随時更新	○各地区の情報収集・交流
7月 ・ 8月	○各分科会との情報交流 大会への参加体制作り ○各地区との情報交流	○機関紙編集会議 ・原稿集約第一校入稿 ・第二校入稿 (8月下旬) ※HP 随時更新 ○学習会の取材 資料更新	○各地区の情報収集・交流
9月	○全道大会への参加体制づくり	○機関紙編集会議 ・機関紙最終チェック ・機関紙発送 (庶務部と連携) ※HP 随時更新	○全道大会への参加体制確認
10月	○全道大会開催 ○大会会員総会	○全道大会関係業務 ・大会取材、記録 ・HPにて広報	○全道大会参加・各地区の研究推進 ○研究の動向・内容の把握と交流
11月	○次年度大会へ向けての研究推進	○全道大会HPに資料更新 ○HP 検討会議 ・来年度に向けて検討	○研究の成果と反省集約
12月	○研究のまとめ	○機関紙に関わる反省	○各地区の情報収集・交流
2月 ・ 3月	○年度反省・次年度推進計画構想	○今年度の取組についてのまとめ ○次年度に向けての年間計画作成着手	○年度反省、年間活動報告の作成と報告 ○次年度研究計画の立案

令和3(2021)年度 北海道国語教育連盟 諸会議年間計画

20210515

4月		5月		6月		7月		8月		9月	
1	木	1	土	1	火	1	木	1	日	1	水
2	金	2	日	2	水	2	金	2	月	2	木
3	土	3	月 憲法記念日	3	木	3	土	3	火	3	金
4	日	4	火 みどりの日	4	金	4	日	4	水	4	土
5	月	5	水 こどもの日	5	土	5	月	5	木	5	日
6	火	6	木	6	日	6	火	6	金	6	月 事務局会③ 正副部長会③
7	水 事務局会①	7	金	7	月	7	水	7	土	7	火
8	木	8	土	8	火	8	木	8	日 山の日	8	水
9	金	9	日	9	水	9	金	9	月 振替休日	9	木
10	土	10	月	10	木	10	土	10	火	10	金
11	日	11	火 事務局会② 正副部長会②	11	金	11	日	11	水	11	土
12	月	12	水	12	土 全小国研理事会	12	月	12	木	12	日
13	火	13	木	13	日	13	火	13	金	13	月
14	水	14	金	14	月	14	水	14	土	14	火
15	木	15	土 役員会・常任委 員会(ONLINE)	15	火	15	木	15	日	15	水
16	金	16	日	16	水	16	金	16	月	16	木
17	土	17	月	17	木	17	土	17	火	17	金
18	日	18	火	18	金	18	日	18	水	18	土
19	月	19	水	19	土	19	月	19	木	19	日
20	火	20	木 全中国研理事 会	20	日	20	火	20	金	20	月 敬老の日
21	水	21	金	21	月	21	水	21	土	21	火
22	木 正副部長会①	22	土	22	火	22	木 海の日	22	日	22	水
23	金	23	日	23	水	23	金 スポーツの日	23	月	23	木 秋分の日
24	土	24	月	24	木	24	土	24	火	24	金
25	日	25	火	25	金	25	日	25	水	25	土
26	月	26	水	26	土	26	月	26	木	26	日
27	火	27	木	27	日	27	火	27	金	27	月
28	水	28	金	28	月	28	水	28	土	28	火
29	木 昭和の日	29	土	29	火	29	木	29	日	29	水
30	金	30	日	30	水	30	金	30	月	30	木
		31	月			31	土	31	火		
						※夏の学習会(今後検討)					

令和3(2021)年度 北海道国語教育連盟 諸会議年間計画

20210515

10月		11月		12月		1月		2月		3月	
1	金	1	月	1	水	1	土 元旦	1	火	1	火
2	土	2	火	2	木	2	日	2	水	2	水
3	日	3	水 文化の日	3	金	3	月	3	木	3	木
4	月	4	木 全小国研愛媛大会①	4	土	4	火	4	金	4	金
5	火	5	金 全小国研愛媛大会②	5	日	5	水	5	土	5	土
6	水	6	土	6	月	6	木	6	日	6	日
7	木	7	日	7	火	7	金	7	月	7	月
8	金 第76回上川・旭川大会	8	月	8	水	8	土	8	火	8	火
9	土	9	火	9	木	9	日	9	水	9	水
10	日	10	水	10	金	10	月 成人の日	10	木	10	木
11	月	11	木	11	土	11	火	11	金 建国記念日	11	金
12	火	12	金	12	日	12	水	12	土	12	土
13	水	13	土	13	月	13	木	13	日	13	日
14	木	14	日	14	火	14	金	14	月 事務局会⑤ 正副部長会⑤	14	月
15	金	15	月 事務局会④ 正副部長会④	15	水	15	土	15	火	15	火
16	土	16	火	16	木	16	日	16	水	16	水
17	日	17	水	17	金	17	月	17	木	17	木
18	月	18	木 全中国研茨城大会①	18	土	18	火	18	金	18	金
19	火	19	金 全中国研茨城大会②	19	日	19	水	19	土	19	土
20	水	20	土	20	月	20	木	20	日	20	日
21	木	21	日	21	火	21	金	21	月	21	月 春分の日
22	金	22	月	22	水	22	土	22	火	22	火
23	土	23	火 勤労感謝の日	23	木	23	日	23	水 天皇誕生日	23	水
24	日	24	水	24	金	24	月	24	木	24	木
25	月	25	木	25	土	25	火	25	金	25	金
26	火	26	金	26	日	26	水	26	土	26	土
27	水	27	土	27	月	27	木	27	日	27	日
28	木	28	日	28	火	28	金	28	月	28	月
29	金	29	月	29	水	29	土			29	火
30	土	30	火	30	木	30	日			30	水
31	日			31	金	31	月			31	木
						※冬の学習会(今後検討)					

事務局活動計画（案）

事務局長 横道 幸紀

1. 運営方針及び業務内容

北海道の小中学校における国語教育の振興と充実に資するために次の業務の推進に当たる。

- 1) 活動方針及び活動推進計画の作成と活動報告に関すること
- 2) 組織や事業の維持向上に関すること
- 3) 各地区組織との連携や連絡調整に関すること
- 4) 各局・各部の活動を推進していく上での連絡調整に関すること
- 5) 役員会、事務局会、常任委員会、大会会員総会等の開催に関すること
- 6) 関係機関(文科省、道教委、市教委、各教育局等)、他団体との連携に関すること
- 7) 関係機関、他団体への派遣に関すること
- 8) その他

2. 担当者及び主な業務内容

事務局長	横道 幸紀	澄川中		・事務局の統括 ・後援事業、依頼報告の業務 ・諸会議の開催 ・各地区事務局との業務連携
事務局長 補佐	村上 智樹	幌西小		・諸会議開催(案内・年間計画)実務 ・常任委員会等の準備
事務局 次長	田中 義直	発寒南小	小中学部	・小中学部の事業支援(学習会等)
	唐澤 俊樹	手稲鉄北 小	情報部	・情報部の事業支援 (HP、会報等) ・HPの更新、会報等の作成と情報発信
	亀田 和人	八軒小	研究部	・全道研究大会及び各地区研究支援
会計局 次長	小菅 猛雄	新発寒小	庶務部	・案内状、委嘱状等の発送業務 ・会議等の受付諸準備 ・全道大会参加集約

3. その他業務の担当者

- 1) 全小国研 北海道代表理事 西村 裕子 全小国研 北海道事務局 村上 智樹
- 2) 全中国研 北海道代表理事 大田 利幸 全中国研 北海道事務局 横道 幸紀

4. 年間推進計画

別紙参照

令和3年度 北海道国語教育連盟

会 計 局 活 動 計 画

1 担当者

局長 西村 裕子
【札幌市・藻岩小】

次長 小菅 猛雄
【札幌市・新発寒小】

2 業務

(1) 予算の立案と執行

- ① 各部と連携して、適切な会計業務を行う。

(2) 会費徴収

- ① 常任委員会、学習会、研究大会などの際に、庶務部と協力して会費徴収を行う。
② 会費納入依頼文書と郵便振込用紙の発送を行う。
③ 必要に応じて督促を行い、会費納入率を上げる。

(3) 協賛金の依頼

- ① 研究大会広告掲載等の依頼を行い、財源を確保する。
② 必要に応じて研究大会時に協賛広告集の作成をする。ただし、令和3年度は、オンライン開催のため、協賛広告は募らないこととする。次年度へつなげるために、これまで協賛をいただいている会社には、今後の協賛依頼についての文書を送付する。

(4) 会員名簿作成

- ① 各地区委員、情報部と協力して、異動状況を把握する。
② 事務局と連携して、名簿作成を迅速に行う。

3 年間計画

4月	名簿作成、活動計画・予算案作成、会費徴収（諸会議）	会計業務
5月	連盟名簿完成、会費徴収（常任委員会）	
6月	会費納入依頼文書等の作成・発送	
7月	郵便振込による会費納入開始	
8月	会費徴収（夏の学習会）	
10月	会員徴収（北海道国語教育研究大会上川・旭川大会）	
11月	会費納入状況把握 会費督促文書の発送	
12月	大会研究収録送付会員の把握	
1月	会費督促、会費徴収（冬の学習会）	
2月	年度反省・次年度の方針の検討、	
3月	会計決算、会計監査、会員異動調査	↓

令和3年度 北海道国語教育連盟

庶務部活動計画（案）

庶務部長 齊藤 優太

1. 担当

部長	齊藤 優太	(北光小学校)
副部長 (小)	藤屋 洋佑	(山鼻小学校)
副部長 (中)	石川 容子	(八軒東中学校)
部員 (小)	大久保 康	(美香保小学校)
同	都築 典子	(本通小学校)
同	井内 美里	(新琴似緑小学校)
同	桑村 優里	(幌南小学校)
同	江渡 恵子	(宮の森小学校)
部員 (中)	菅又 隆之	(日章中学校)

2. 業務と分担

庶務部は各部の業務が円滑に進められるように連絡、調整、支援に当たることで、国語連盟の諸活動が組織として成果が上がるように活動することを主な業務とする。

○業務

- ① 庶務部活動計画の作成
- ② 総会・常任委員会・役員会等の開催に係る事務的業務
- ③ 総会・常任委員会決定事項についての関係者・機関への情報提供
- ④ 正副部長会議等に係る事務的業務
- ⑤ 委嘱・派遣などに係る事務的業務
- ⑥ 各地区組織、各部活動、他団体との連絡・調整に係る事務的業務
- ⑦ 連盟事業活動（機関誌含む）に係る文書の収受、作成、発送、保管
- ⑧ 会員募集（・会員募集文章作成、発送 ・大会時等における新規会員募集）
- ⑨ 年度末の異動に関わる会員の動向調査
- ⑩ 組織確立

⑪ 他の部に属さない業務

（全道大会参加体制づくり、懇親会の企画・運営、連盟業務の効率化と経費節約に関する調査・改善等）

○分担

※①～⑤及び⑧は部長が所轄し、副部長が担当する。

※⑥は副部長（中）が所轄し、中学校部員が主に担当する。

※⑦は副部長（小）が所轄し、小学校部員が主に担当する。

3. 年間推進計画

4月	活動計画案作成 拡大委員会案内状作成・発送 委嘱状の作成・発送 常任委員会案内状作成・発送
5月	常任委員会・懇親会準備 常任委員会懇親会の受付業務（当日） 会員募集、会費徴収、新規会員勧誘文章の作成
6月	上川・旭川大会第2次案内発送
7月	
8月	
9月	
10月	第76回北海道国語教育研究大会上川・旭川大会開催（8日）
11月	
12月	
1月	
2月	上川・旭川大会研究集録発送業務 年度反省（活動報告作成）

北海道国語教育連盟 研究部 活動計画(案)

良質な国語科授業の創造により北海全道の児童・生徒の国語力向上を目指す

2021. 4. 6

北海道教育大学附属札幌小学校 中島 大輔

1 担当者

部長	中島 大輔（北海道教育大学附属札幌小学校）	
副部長	鈴木 真之介（北海道教育大学附属札幌中学校） 後藤 卓（札幌市立幌南小学校）	
部員	<小学校>	<中学校>
	渡部 伸野（札幌市立北光小学校）	森山奈緒子（市立札幌開成中等教育学校）
	高桑 陽子（札幌市立幌西小学校）	山上 史織（札幌市立啓明中学校）
	松岡 佑（札幌市立手稲北小学校）	松森 亮介（札幌市立屯田北中学校）
	安尻 太郎（札幌市立澄川西小学校）	

2 業務内容（括弧内は主担当）

- ① 研究主題及び副主題の設定、研究活動の推進（中島・鈴木・後藤）
- ② 研究大会の計画及び運営（中島・鈴木・後藤）
- ③ 学習会による全市・全道への研究活動の発信（高桑・安尻・森山・山上）
- ④ 全国の研究団体との交流及び研究動向の調査（渡部・松岡・松森）
- ⑤ 全道や全国での研究会・研修会等の講師派遣（窓口：中島）

3 業務内容の具体

①研究主題及び副主題設定、研究活動の推進（中島・鈴木・後藤）

研究主題による良質な国語科授業の創造・展開

研究推進部では、研究主題及び副主題を設定し、授業実践を通して検証しながら、成果と課題を集積する形で研究活動を進める。成果と課題を次の授業実践に反映させ、より良質な国語科授業を創造・展開できるようにしていくことで、北海道の児童・生徒の国語力向上を目指す。

「不易と流行」そして各地区の熱意を集約して

主題設定では、これまでの研究成果を継承しつつ、新しい国語科教育が目指すものを踏まえ、「不易と流行」を大切にする。さらに、全道各地区の「北の国語人」の熱意を集積しながら、北海道の国語教育を高められるよう、主題の価値を授業実践と併せて発信していく。

学習会と研究大会を通して推進する

前述の通り、研究主題及び副主題について授業実践を通して検証していく。各地区の学習会や研究大会の活動推進に寄与し、成果と課題を集積できるようにする。その際、各地区の研究部や研修部と連携を取りながら進めていけるようにする。

今年度の研究主題について

言語活動を通して言葉への自覚を高め、言葉の力が身に付く国語科授業の創造

「言語活動を通して」…良質な言語活動を通して資質・能力を育成する。良質な言語活動とは、児童・

生徒が学ぶことに期待や意欲がわいたり、学ぶことへの意味を明確にもったりできるような仕掛けがあることが欠かせない。そして、児童・生徒の学びの方向が指導事項を身に付けることと一致する活動である。

「言葉への自覚を高め」…児童・生徒が、言葉の持つ価値について言語活動を通して実感し、言葉への自覚を高めることで、日常に生きて働く力となることをねらう。

「言葉の力が身に付く」…私たちが求めるのは、次のような姿である。①言葉を通して正確に意図や内容を理解したり、言葉を適切に表現したりする姿。②言葉を駆使して考えを形成する姿。③言葉を通じて人と社会と関わり自他の存在についての理解を深め、豊かな社会性を身に付ける姿。「言葉の力が身に付く」とは、そのような姿であり、言語活動、とりわけ「実の場」を通してそのような姿にせまっていくことをねらう。

② 研究大会の計画及び運営（中島・鈴木・後藤）

③ 学習会による全市・全道への研究活動の発信（高桑・安尻・森山・山上）

全道大会や各地区の研究大会においては、開催地区の研究成果を継承しながら、各地区の研究部と連携を取りながら計画及び運営に当たる。学習会については、本連盟の研究主題及び副主題、授業実践の成果や課題を広く発信できるよう、各地区で適宜設定し、運営に当たる。その際、小中学部や各地区の研修部と連携を取りながら進める。

④ 全国の研究団体との交流及び研究動向の調査（渡部・松岡・松森）

⑤ 全道や全国での研究会・研修会等の講師派遣（窓口：中島）

全道の研究団体はもちろん、全国の研究団体とも積極的に交流を図り、各地の研究動向をつかむようにする。さらに、全国へ本連盟の研究内容を積極的に発信する。そのために、提言発表者や講師等の派遣依頼があった場合は、事務局の助言を受けながら、人選に当たる。

4 年間計画 ※後日提案

5 札幌地区研究大会について

趣旨については昨年度提案済。

今後の計画については、新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら随時判断。

情報部活動計画（案）

1. 担当者

部長	(中) 紺野 翔太	札幌市立新琴似中学校
副部長	(小) 伊藤 健士郎	札幌市立明園小学校
	(中) 笹山 和也	札幌市立新琴似中学校
部員	(小) 難波 駿	札幌市立新川中央小学校
	(小) 香川 寛樹	札幌市立厚別北小学校
	(小) 櫻井 渉	札幌市立西園小学校
	(小) 北 風太	札幌市立盤溪小学校
	(小) 鈴木 智史	札幌市立中央小学校
	(中) 加賀 一	市立札幌開成中等教育学校
	(中) 窪田 貴文	札幌市立新川中学校

2. 業務内容

<基本方針>

- ・各部から寄せられた活動内容や連絡事項及び研究会などの案内や情報などを、機関紙やHPに掲載することで、国語教育連盟の活動を北海道の会員及び国語教育に関心をもつ方々に広く情報を提供していくことを主な業務とする。
- ・機関紙やHPを通して、北海道の連盟各地区との連携や交流を充実させていく。
- ・研究部と連携し、各種調査に関わる情報処理を担当する。

❖部長

- ・情報部統括，他の部との連絡調整
- ・機関紙及びHPの企画立案統括（HPについては他の部と連携しながら運営する）
- ・編集会議の立案・運営・派遣依頼

❖副部長

- ・機関紙関係・・・企画，原稿依頼及び依頼文書発送，玉稿礼状の発送
- ・HP関係・・・企画，取材，運営の推進
- ・機関紙記録保管
- ・機関紙等の印刷業者対応

❖部員

- ・機関紙の取材・編集・校正
- ・HPの取材・作成・更新
- ・各種調査の情報処理

第76回北海道国語教育研究大会 旭川大会に向けて

- 大会案内（1次・2次）の作成とHP掲載
- 大会要項の作成（依頼・編集校正）
- （大会後）研究集録の作成
- 大会に関するHP掲載・更新作業

※活動日程については、適宜担当事務局長と連絡をとりながら調整

3. 推進計画及び日程

●機関紙関係

(1) 機関紙第 <u>180</u> 号の企画編集会議	令和3年	5月中旬
原稿取材依頼	令和3年	6月中旬
原稿編集校正	令和3年	7月下旬
原稿締め切り	令和3年	8月上旬
印刷業者入校	令和3年	8月中旬
(2) 機関紙第 <u>180</u> 号の発送	令和3年	9月中旬予定

●HP 関係

HP の編集会議	令和 3 年 5 月中旬 (機関紙班と合同)
HP の主な更新	令和 3 年 5 月 常任委員会
	令和 3 年 8 月 夏季学習会 (予定)
	令和 3 年 10 月 旭川大会

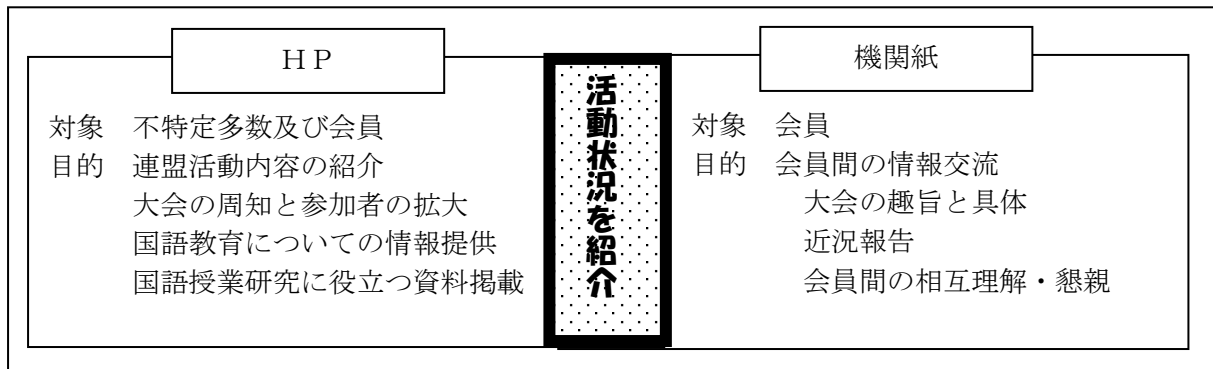
※編集会議終了後、研究大会第 1 次案内・2 次案内・申込書、指導案や授業資料等、地区の情報、学習会資料等の情報を収集・整理して随時更新していく。

※会員の情報変更は掲示板や連盟メールアドレスを適切に管理する。

●各種調査の情報処理

(あれば) 研究部の計画に沿って行う。

4. 機関紙及び HP の役割とその内容



1 機関紙の役割

①会員だからこそ欲しい情報を提供

★ニーズにあった情報

→現役会員には研究に役立つ情報を、OB 会員には研究情報に合わせて連盟活動の近況報告を

②国語研究人だからこそ欲しい情報を提供

★各地区からの実践を幅広く掲載することで研究情報の共有

★研究大会の詳細 (研究主題解説、分科会の内容)

③世代をつなぐ役割を

★現役間, 現役←→OB 間 で交流を深める

④会員間の親睦を深める

★会員の紹介

2 HP の役割

①不特定多数に提供すべき情報の発信

★連盟の活動内容の紹介

→大会の情報 (開催の趣旨・開催地・開催時期等) を提供することにより参加者の拡大をねらう

→活動状況 (各地区の活動紹介) OB 会員には 研究に役立つ情報と活動の近況報告を

②国語研究団体として国語教育に関心のある方々へ情報を提供 (会員ページ)

★会員ページの充実を図る (情報変更にかかる掲示板設置)

→指導案やワークシート等の実践紹介

→各地区からの実践を幅広く掲載することで研究情報の共有

→連盟主催の学習会の資料等を掲載

※HP での情報発信は、情報部に限らず他の部も適宜行うことができるよう連携を図る

令和3年度 小中学部 年間活動計画（案）

- 1. 担当者**
- 部長： 新井 拓（北海道教育大学附属札幌中学校）
 副部長： 黒澤 英靖（北海道教育大学附属札幌小学校）
 副部長： 佐々木康平（札幌市立厚別中学校）
 部 員： 廣川 友太（札幌市立西宮の沢小学校）
 岡 洋平（札幌市立西白石小学校）
 畔川 耕一（札幌市立二条小学校）
 東 陽子（札幌市立八軒小学校）
 小笠原太郎（札幌市立中央中学校）
 田中 大地（札幌市立北都中学校）
 細田 真輝（札幌市立南が丘中学校）

2. 業務内容

- (1) 小中学校の研究の企画・推進（研究部との連携）とそのまとめ
- ・業務の推進に当たり、国語科教育における課題と新学習指導要領の動向を意識しつつ、これまでの連盟研究の流れを踏まえ、研究の推進に寄与できるような活動の企画・運営を行う。
- (2) 小中学校の組織の拡充（庶務部との連携）とその活性化
- ・研究の交流と深化、人的な輪の広がりのために、夏の学習会を企画し、連盟研究組織の拡充を図っていく。なお、学習会講師に関しては、研究部と連携して選定準備を行う。
 - ・第76回北海道国語教育研究大会上川・旭川大会（10月8日）を通じて全道各地との研究や実践の交流を図り、今後の課題と方向性を明らかにする。

3. 活動計画

月	活 動 内 容
4月	年間活動計画案の作成
5月	役員会・常任委員会で年間計画の提案
6月	夏の研究交流学習会へ向けた準備
7月	↓
8月	夏の研究交流学習会 各地区の情報収集・交流
9月	学習アンケートの集約と事務局への報告 全道・全国大会の運営及び参加体制の確認
10月	第76回 北海道国語教育研究大会（上川・旭川大会） 全道・全国との交流
11月	大会の成果と課題のまとめ
12月	↓
1月	各地区の情報収集・交流
2月	次年度へ向けた活動計画の見直し
3月	年度反省 年間活動報告書の作成と報告

4. 札幌地区の取組

- (1) 月例会の企画・運営
- ・定期的、継続的に学習会を実施することで、協働的に学びを深める場を保障する。
 - ・研究部との連携を図り、札幌の研究を推進する。
 - ・中学校1部会、小学校5部会とし、月1回の開催を基本とする。
 - ・新型コロナウイルス感染症の状況に鑑み、オンラインを積極的に活用する。
 - ・連盟会員以外にも参加を呼びかけ組織の拡充につなげる。
- (2) 冬の学習会の企画・運営
- ・月例会の成果を交流する場として、小学校と中学校それぞれ実践発表を行う。
 - ・研究部との連携を図り、札幌の研究の推進に寄与する。
 - ・連盟会員以外にも参加を呼びかけ、研究の成果を発信する場とする。

令和3年度 北海道国語教育連盟 一般会計 予算(案)

1 収入

(単位:円)

項目	R2補正予算額	決算額	R3予算額	増減	内 訳
繰越金	532,093	685,924	685,924	153,831	
会 費	660,000	678,000	660,000	0	3,000×220
協賛金	0	0	0	0	広告料他
学習会	0	0	0	0	
基金補助	0	0	0	0	
雑収入	10	157	10	0	銀行利息他
計	1,192,103	1,364,081	1,345,934	153,831	

2 支出

(単位:円)

	項目	R2補正予算額	決算額	R3予算額	増減	主 な 内 訳
事務局費	役員会費	10,000	6,600	5,000	-5,000	名刺
	常任委員会費	10,000	0	150,000	140,000	
	事務局会・正副部長会費	10,000	10,000	10,000	0	会場費
	事務用品費	80,000	7,544	80,000	0	封筒、インク、用紙、ラベルシート
	通信・渉外費	100,000	48,696	100,000	0	発送費
	各種旅費補助	70,000	0	175,000	105,000	全小・全中理事会旅費補助
	講師派遣費	40,000	5,250	40,000	0	次年度全道大会開催地講師旅費補助
各部活動費	会計局	45,000	0	45,000	0	会費納入案内発送
	庶務部	25,000	0	25,000	0	各種案内、委嘱状発送、会員募集案内
	研究部	20,000	0	20,000	0	研究資料、部会費
	情報部	200,000	79,272	200,000	0	機関紙印刷・発送、ドメイン変更
	小中学部	30,000	0	30,000	0	用紙、会議費
事業	学習会	0	0	0	0	
その他	分担金	40,798	40,964	40,964	166	全小・全中国研分担金
	広告費	70,000	66,000	70,000	0	北海道通信広告掲載
	研究大会補助金	260,000	260,000	260,000	0	開催地補助、研究集録印刷費補助
	予備費	181,305	0	94,970	-86,335	
	計	1,192,103	524,326	1,345,934	153,831	

北海道教育委員会教育長・各教育局長 様
各市町村教育委員会教育長 様
国立小・中学校長 様
関係者 様

大会長 大田 利幸（北海道国語教育連盟委員長）
実行委員長 神林 宏行（北海道国語教育連盟副委員長）



令和3年度、第76回上川・旭川大会は、「継承と進化―紡ぐ・織りなす―」をコンセプトに、これまでの研究大会の成果をしっかりと継承し、上川・旭川の国語人の力を紡ぐことで、更なる進化を成し遂げる研究大会を目指します。とりわけ、以下の3点に注力します。

- 今後の研究大会の在り方を見据え、持続可能性のある運営の方向性を示すこと。
- 中学校は学習指導要領完全実施の初年度、小学校は2年度となることを意識した実践を発信すること。
- 提言はもとより、分科会の運営委員等、上川管内からの協力を積極的に仰ぎ、研究大会の成果を令和9年度に引き継ぐこと。

当日は、質の高い「言語活動」を通して、言葉の力を確実に身に付けさせる「主体的・対話的で深い学び」を実現する国語科授業のあるべき姿を、ご参集いただいた皆様とともに追究していく所存です。上川・旭川の国語人一同、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

【大会研究主題】

言語活動を通して自らの考えを築き、つながる言葉の力を高める授業の創造

期日 令和3年10月8日(金)

〈小学校9授業・中学校6授業公開として案内済〉

新型コロナウイルス感染状況による「上川・旭川大会」実施基準（案）

R3.5.9

段階	新型コロナウイルス感染状況	大会開催及び運営方法	資料の配布方法	参加料
1	全道がステージ1の状態。	※三密を回避した授業公開及び分科会運営。 (参加数の制限)		通常通り 集金
2	旭川市を含む道内の一部地域がステージ2の状態。	※動画利用による集合開催（全体会は自粛） 【午前】授業会場校での分科会運営。 授業動画視聴後、研究協議。 【午後】神楽小にて 各分科会での提言。研究協議。	◇電子データ ◇紙媒体（希望者）	通常通り 集金
3	旭川市がステージ3相当。道内の一部地域が緊急事態宣言に類する往来自粛等の対象となっている。【R3.5月9日現在】	※オンラインによる開催。（全体会は自粛） 【午前】領域別委員会ごとの分科会運営。 授業動画視聴後、研究協議。 【午後】領域別委員会ごとの分科会運営。 各分科会での提言後、研究協議。	◇電子データ	減額を 検討
4	旭川市が緊急事態宣言に類する往来自粛等の対象となっている。 その他の地域はステージ3相当。			
5	全道が緊急事態宣言に類する往来自粛等の対象となっている。（ステージ4相当）			
6	旭川市がステージ5相当。 市内小中学校が臨時休業あるいは分散登校をしている。	※大会は中止。	※可能な資料を 道連HPに掲載	

《第76回上川・旭川大会 オンライン開催に関する課題》

1 授業動画の配信

- ◎ 授業動画の配信にあたっては、「個人情報」や「著作権」の保護に十分配慮する。
 - ◇ You Tubeを利用し、アクセスに必要な情報は、パスをかけたPDFで送付する。
 - ◇ 参加者には録音、録画をしないように依頼する。
 - ◇ 掲載期間後は確実にデータを削除する。
- ◎ 編集動画はダイジェスト版にする。(30分程度)
 - ◇ カットした部分や、聞き取りにくい部分については、「解説」や「字幕」などで分かりやすくする。
 - ◇ 同単元の別時間の指導映像を組み込むなど工夫があってもよい。

① 個人情報の保護

- ◎ 授業学級の保護者全てに個人情報に関わる承諾書の回答を得る。
 - ◇ 録画日 ◇ 掲載期間 ◇ 分科会期日 ◇ 使用目的 ◇ 使用する教科・領域 ◇ 相談窓口
 - ◇ その他（顔が映ること・子どもの発言が入ること・顔と名前が一致しないよう編集すること）
 - ※ 承諾をいただけないご家庭のお子さんは「映さない」、または編集でカットする。
- ◎ 動画撮影時や動画編集時に配慮する。
 - ◇ 顔と名前の一致を避ける。(指名時に顔を映さない。名札を外させる。プリントの名前に配慮。)
 - ◇ 複数のカメラを使用して編集する。(教室全体、教師の動き、児童生徒の活動、板書、大型掲示等)

② 著作権の保護

- ◎ 教科書会社に確認し、使用の許可を得る。
- ◎ 並行読書など、教科書以外の書籍に関わる許可は、授業分科会ごとに行うが、「許可申請が通らない」
または「申請しない」場合については、映像に映らないよう配慮する。

2 オンライン分科会の運営

① 実施可能な授業分科会の検討

- ◎ 個人情報保護等の課題により動画の配信ができなくなった授業分科会は行わない。
※ 実施可能な授業分科会については、二次案内発出までに確定する。

② 会場校のオンライン環境の確認

- ◎ 何人までスムーズに扱えるかは各学校の環境によって違う。分科会の間、ネット使用を控えてもらう等の配慮が必要かもしれない。

③ オンライン会議の運営スキル

- ◎ 各領域でオンライン会議の経験値をあげる等、会議運営のスキルアップが必要不可欠である。
- ◎ 小を午前、中を午後にする等の工夫により、会議数を減らすことも検討する。
- ◎ 提言者のオンライン環境についても事前に確認し、脆弱な場合については対応を工夫する。

《今後の予定》

5	15	土	北海道国語教育連盟 常任委員会 (顧問・研究部長・部長)	事業計画 上川・旭川大会について、釧路大会について
	27	木	オンライン会議に関する研修会	オンラインでの分科会運営に関する研修
6	15	火	第2回研究推進運営委員会・研究会	オンライン大会開催要項・作業工程の確認
7	中旬		二次案内発出	メールでの送付を予定
	下旬		つながる研修会(旭教研国語部)	大会運営・研究内容等の確認
9	7	火	第3回研究推進運営委員会・研究会	各領域委員会の大会準備進捗状況の確認
	中旬 までに		授業動画提出 分科会等シミュレーション	動画編集(配慮事項・構成に留意) シミュレーション(運営・授業説明・提言)
10	上旬		授業動画の配信	参加者に限定配信
	8	木	第76回上川・旭川大会	オンライン開催(開閉開式・レセプションなし)

第76回北海道国語教育研究大会 上川・旭川大会 研究主題
令和3年(2021年)度 北海道国語教育連盟 研究主題

「言語活動を通して自らの考えを築き、 つながる言葉の力を高める授業の創造」

北海道国語教育連盟 研究部長 中 島 大 輔 (北海道教育大学附属札幌小学校)
上川・旭川大会 研究部長 椎 名 俊 文 (旭川市立神楽中学校)
北海道国語教育連盟 研究副部長 鈴 木 真之介 (北海道教育大学附属札幌中学校)
北海道国語教育連盟 研究副部長 後 藤 卓 (札幌市立幌南小学校)

I はじめに

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症が世界中で猛威を振るい、終息の見えない混沌とした1年間となった。そのため、令和2年10月に予定されていた、第75回北海道国語教育研究大会十勝・帯広大会は、感染拡大防止のために中止を余儀なくされた。研究主題「言葉への自覚を高め、生きてはたらく言葉の力を育む授業の創造」のもと、子どもが生き生きと学ぶ姿をたくさんの方々に参観いただき、北海道各地の国語人が参集して熱心な議論を交わすことは叶わず、非常に残念であった。しかし、十勝・帯広管内の会員同士で授業を公開し合って議論を重ねるとともに、その情熱溢れる取組を冊子「研究の足跡」にまとめ、発刊することができた。また、北海道国語教育連盟令和2年度冬の学習会をオンライン方式で開催し、十勝・帯広地区代表者2名が実践提案を行い、全道に発信することができた。このように、脈々と受け継がれてきた本連盟の研究の営みは、この見通しのきかない感染症の猛威の中でも、国語人の熱意により、途切れることはなかった。

このような中、北海道各地の国語人の熱意を受け継ぎ、令和3年10月8日に、旭川市において、第76回北海道国語教育研究大会上川・旭川大会が開催される。本年度は、中学校は学習指導要領完全実施の初年度、小学校は2年度となるため、小学校・中学校ともに学習指導要領の実践を発信するはじめての大会となる。

以上のことから、これまで積み上げられてきた本連盟の研究成果を受け継ぎ、新たな実践を発信する本大会の研究主題について、以下に解説する。

II 主題設定にあたって

研究主題設定では、「不易」と「流行」を大切にしながら進めてきている。さらに令和3年度、第76回上川・旭川大会においては、コンセプトを「継承と進化—紡ぐ・織りなす—」とする。このコンセプトを踏まえ、本大会の研究主題の設定にあたって、以下の四点に留意した。

- (1) 過去の北海道国語教育連盟の研究の積み上げを踏まえたものとする
- (2) 新しい国語教育が目指すものを踏まえたものとする
- (3) 前年度開催地区の成果と課題を受け継ぐものとする
- (4) 開催地区の研究の流れを大切にものとする

これまで積み上げられた北海道国語教育連盟の研究成果を継承し、北海道各地の国語人の力を紡ぐとともに、新しい国語教育の動向や全国から発信される様々な実践を踏まえながら、北海道の国語教育の更なる進化を成し遂げようという思いを込めている。

(1) 過去の北海道国語教育連盟の研究の積み上げを踏まえたものとする

北海道国語教育連盟では、これまで「学ぶ側に立った授業・指導」という考え方を大切に、「子どもが自ら獲得する学び」に取り組んできた。個と集団のかかわりの中で一人一人の子どもを大切に、その生き生きとした学び合いの姿を、授業の中で具現化するために、良質な「学習課題」の設定にも尽力してきた。

「学習課題」とは、「教材研究を通して導き出される指導目標や指導事項と子どもの学習活動を結び付けるもの」であり、以下の点に留意して設定されるものである。

- ・子どもが学ぼうという意欲をもち、積極的な学習活動を生むもの
- ・追究、解決のための具体的な学習活動を導き出すもの
- ・追究、解決の過程を通して、指導目標や指導事項の達成、言語能力が高まるものであること
- ・子どもの発達段階や特性、能力に応じたものであること

現学習指導要領では、「言語活動」の充実が、前学習指導要領に続いて一層重視されている。

「言語活動」に「学習課題」が明確に位置付くことにより、児童生徒の主体的に思考・判断・表現する姿が期待でき、深い学びを生むことができると考える。

さらに、「言語活動」の中で他者に対して「はたらきかけ、はたらきかえされ、またはたらきかける」ことを重視してきた。子どもたちは、活動の中で他者とはたらきかけあうことで、言葉について様々な側面から見つめ直し、一層考えが広がったり深まったりすることが期待できるからである。「学習活動」「はたらきかけ、はたらきかえされ、またはたらきかける」これら二つを「不易」とし、本研究にも反映させる。

また本連盟の研究主題は、これまで開催地区の研究内容を反映しつつ、過去の研究大会の成果と課題を踏まえたものとするを基本に設定されてきた。

次に示すのは、過去10年間の研究主題である。

平成22年度【函館】	「生き生きとした言語活動を通して 確かな国語の力をはぐくむ授業の創造」
23年度【釧路】	「確かで豊かな言語活動を通して 生きて働く言葉の力を育む国語科授業の創造」
24年度【十勝・帯広】	「生きてはたらく言葉の力を高める授業の創造」
25年度【札幌】	「自ら言語活動にかかわり学び合うことで、 実生活に生きる言葉の力を獲得する授業の創造」
26年度【空知・滝川】	「豊かな言語活動を通して 確かな言葉の力を育む授業の究明」
27年度【旭川】	「主体的な学びを生み出す言語活動を通して ひびき合う言葉の力を鍛える授業の創造」
28年度【網走】	「言語活動の充実を図り、 実生活を豊かにする言葉の力を身に付ける授業の創造」
29年度【釧路】	「新たな価値を生み出す国語科授業の創造」
30年度【函館】	「実生活に生きてはたらく国語の力を育む授業の創造」
令和元年度【札幌】	「言語活動を通して言葉への自覚を高め、 言葉の力が身に付く国語科授業の創造」
2年度【十勝・帯広】	「言葉への自覚を高め、 生きてはたらく言葉の力を育む授業の創造」

近年、各大会において受け継がれ、改善が試みられてきたことを集約すると、以下ようになる。上川・旭川大会の研究主題も、これらの改善点を踏まえつつ、新たな視点を加えて設定した。

- ① 児童生徒一人一人の個性の伸長と豊かな人間性の育成を目指し、学ぶ側に立つ指導・支援を明確にする。
- ② 基礎・基本の定着を前提とした確かで豊かな言葉の力の育成を目指す。
- ③ 実生活に生きて働く言葉の力を獲得する学習の在り方を考える。
- ④ 集団の中における伝え合う力を重視し、学び合いを生み出す創意工夫のある学習活動を取り入れた授業の創造に取り組む。
- ⑤ 指導と評価の一体化や自己評価の力を培う手立てを工夫改善する。

(2) 新しい国語教育が目指すものを踏まえたものとする

連盟ではこれまで、国立教育政策研究所学力調査官・教育課程調査官の黒田諭氏、文部科学省教科調査官・国立教育政策研究所教育課程調査官の杉本直美氏、文部科学省教科調査官の菊池英慈氏、前教育課程調査官・現京都女子大学教授の水戸部修治氏を招き、講演をしていただいている。学習指導要領改訂に大きく関わる方を講師とした学習会を定期的を開催することで、新しい国語教育が目指すものを、いち早く研究に取り入れるようにしてきたのである。

現学習指導要領の大きな改訂のポイントは、どの教科においても生きて働く「知識・技能」の習得、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養、これら三つの柱に基づいて全ての教科の目標や内容が整理されたことである。国語科も、育成すべき資質・能力を「国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」と規定し、「知識及び技能」、「思考力、判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱に整理してある。このような資質・能力を育成し、生涯にわたって生きて働くようにするための授業改善の視点として、「主体的・対話的で深い学び」が必要であることも同様に示された。

上川・旭川大会が行われる令和3年度は、中学校で学習指導要領の完全実施となり、小学校では2年度となる。小学校・中学校の学習指導要領の両方が完全実施されてはじめての大会となる。上に示した、育成すべき資質・能力や「主体的・対話的で深い学び」という授業改善の視点を生かした新しい実践を発信する、恵まれた機会となる。これまで受け継がれてきたことを土台とした、新しい実践を提案できるものと考えている。

(3) 前年度開催地区の成果と課題を受け継ぐものとする

第74回札幌大会の研究成果を引き継いで実施される予定だった、第75回十勝・帯広大会が中止されたため、旭川大会の研究主題は、過去の研究大会の流れを踏まえたものとした。

(4) 開催地区の研究の流れを大切にすものとする

平成27年度に行われた第70回旭川大会では「主体的な学びを生み出す言語活動を通してひびき合う言葉の力を鍛える授業の創造」を研究主題として、豊かな言語活動を展開するための具体的な手立てや、付けたい力の明確化を進め、「生きる力」を育成するための国語科としての有効なアプローチを提案し、一定の成果を得ることができた。

開催地旭川の研究の特色は、委員会（研修班）体制による主体的な授業研究を土台とし、年1回の研究大会を開催している。研究大会では、小学校・中学校それぞれの授業を、全会員が参観して協議を深めるなど、小・中連携を重ねてきた歴史もある。

開催地旭川の研究成果を受け継ぎ、上川管内教育研究会とも研究成果を共有し、上川・旭川の国語人の力を集結した大会にすべく、準備を進めている。

Ⅲ 研究主題の解説及び研究の視点

(1) 研究主題

言語活動を通して自らの考えを築き、つながる言葉の力を高める授業の創造

(2) 主題設定の理由

中央教育審議会の「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」には、「社会の変化は加速度を増し、複雑で予測困難となってきており、どのような職業や人生を選択するかにかかわらず、全ての子どもたちの生き方に影響するものとなっている。このような時代だからこそ、子どもたちは、変化を前向きに受け止め、社会や人生を、人間ならではの感性を働かせてより豊かなものにしていくことが期待さ

れる。」「子どもたち一人一人が、予測できない変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けられるようにすることが重要である。」とある。

急激な社会的変化が進み、数年先の未来が予測困難である今、その社会を生きていく子どもたちには、変化に向き合い、他者と協働して課題を解決していく力や、多くの情報の中から本当に必要なものを見極め活用する力、生涯にわたり主体的・能動的に学び続ける力などが求められている。

平成27年度に行われた第70回旭川大会では「主体的な学びを生み出す言語活動を通して、ひびき合う言葉の力を鍛える授業の創造」を研究主題として、豊かな言語活動を展開するための具体的な手立てや、付けたい力の明確化を進め、「生きる力」を育成する国語科としての有効なアプローチを提案し、一定の成果を得ることできた。その成果と課題を踏まえて、本市では年1回の研究大会の開催、小学校・中学校の領域を超えた授業公開を行い、研究を継承、発展させてきた。

新学習指導要領全面実施となる今、言葉を学習対象とする国語科において、求められることは何か。それは、より質の高い「言語活動」を通して、子どもたちに生きて働く言葉の力を付けるための学びを実現することである。

「言語活動」はこれまで国語科で重視されてきたものと変わらない。その「言語活動」が質の高いものであればあるほど、子どもの主体性が引き出せる。子どもにとって「なぜ学ぶのか」という目的が明確になるため、単元を通して主体的な学習が期待できる。このような、子どもたちが主体的に学ぶ、質の高い「言語活動」を国語科の授業の中心に据えることが何よりも重要である。また、「言語活動」を中心に据えることで、言葉を使って考えたり、判断したり、表現したりする必要感が生まれる。子どもたちは自分が言葉で考えたことを、他者とのコミュニケーションなど様々な側面（要素）から問い直して理解し直したり、表現し直したりする。そのように、自分の考えが築かれるときには、他者をはじめ様々な側面（要素）とのつながりがあり、思考が深まっていく。それが、日常生活や国語科の他の単元、他教科の学習に生きて働く言葉の力につながっていくと考える。

以上のことから、質の高い「言語活動」を通して自分の考えを築き、様々な側面（要素）とのつながりのある学びに焦点を当てて取り組むことが、日常生活で生きて働く言葉の力を育成することにつながると考え、本研究主題を設定した。

3 研修主題の解説

本研究主題が目指すものは、大きく2つの柱でまとめることができる。1つめの柱は「自らの考えを築く」こと、2つめの柱は「つながる力を高める」ことである。

(1) 「自らの考えを築く」

授業の中で、言葉を使って考えてきたことを子ども自身が確かめたり、自らの考えが変容したことに気付いたりすることなどを通して、子ども自身が、自らの考えを構築したり、再構成したりすることを目指すものである。

その実現のために、土台となるのは、

- ・思考過程が明確になる単元の設定（指導計画）
- ・単元を包括する見通しと振り返りの設定
- ・学ぶ必要感を引き出す課題の設定
- ・新たな発見のある学習場面の設定

などである。学習指導要領の「考えの形成」の具現化がポイントとなるが、領域によっては「構成の検討」や「精査・解釈」などに「自らの考えを築く」ポイントとなる指導事項がある（別紙1）。

(2) 「つながる言葉の力を高める」

(1)の「考えを築く」過程や「考えを築いた」結果の中で、

- ・対象と言葉がつながり、関係性を理解したり、意味付けをしたりすること
- ・言葉の知識と言葉の知識がつながり、より深い学びに向かうこと
- ・自分と他者がつながり、共に学ぶことで、考えが変化したり、学びが深まったりすること
- ・自分の教室での学びが社会や生活の中で発揮されること

などである。学習指導要領の「共有」の具現化がポイントとなるが、領域によっては「表現」や「構造と内容の把握」などに「つながる言葉の力を高める」ポイントと指導事項がある（別紙2）。

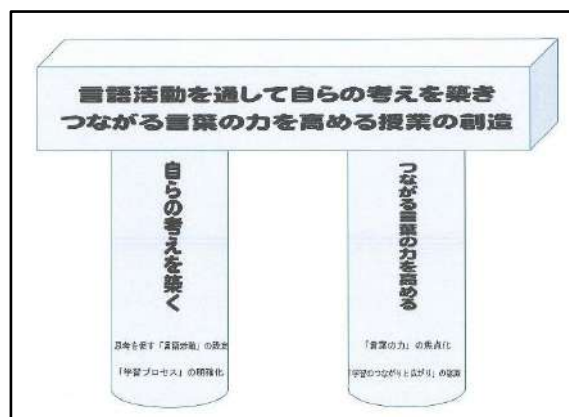
これらのことを、授業に仕組み、言葉の力を高めることが、研究主題の目指すところである。

4 研究の視点

(1) 「自らの考えを築く」言語活動

□思考を促す「言語活動」の設定

単元を通して、子どもが主体的に取り組むことができる「言語活動」を設定する。この「言語活動」は、「学習課題」とともに、単元の導入で効果的に提示することで、子どもたちに単元のゴールを見通せるようにする。単元を通して取り組む「言語活動」が明確になれば、単位時間の学習活動（単位時間の言語活動）とリンクして、学習活動が明確になる。子どもたちにとっては、学ぶ必要性が明確になり、主体的に思考、判断、表現する学習につながると考える。



□「学習プロセス」の明確化

子どもの「思考過程」を明確にする学習過程を単元の「学習プロセス」とする。「学習プロセス」によって、子どもたちの思考の流れをつかむことができるようにする。学習過程によって子どもたちの思考は変わるものである。どの過程で考えが形成され、その後どのように変容するのか、広がるのか、深まるのかを見通した「学習プロセス」を定めることで、子どもたちの思考を追う。

(2) 「つながる言葉の力を高める」指導の手立て

□「言葉の力」の焦点化

身に付けるべき「指導事項」を「言葉の力」として設定する。焦点化することで、「学習プロセス」とともに、学ぶべき内容を明確にする。

□「学習のつながりと広がり」の認識

国語科の学習には「単元間のつながり」「学年間のつながり」「領域間のつながり」「教科間のつながり」がある。そのつながりを把握することで既習事項やその後の学習との系統性や連続性を生かす。また、学習が進むことによって考えられる、振り返りや繰り返しの必要性、学習の高まりなども把握する。

5 「授業プラン」

「4 研究の視点」に示した内容を網羅して授業作りをするために提案するのが「授業プラン」である。

「授業プラン」では

- ・「自らの考えを築く」言語活動

・「つながる言葉の力を高める」指導の手立て
の2点を重点的に記述する。

「自らの考えを築く」言語活動の部分には、①単元で中心となる言語活動を記述し、②子どもの思考の過程を「学習プロセス」に記述し、③言語活動の解説を「言語活動例」に記述する。

「つながる言葉の力を高める」指導の手立ての部分には、①付けたい言葉の力を焦点化し、②つながりを仕組む指導の詳細を「指導の手立て」に記述し、既習事項やその後の学習との連続性を③「学習のつながりと広がり」に記述する。

「大会会員総会」の要領

1 ねらい

- (1)大会参会者に、北海道国語教育連盟の活動について理解していただく。
 (2)道内各地の研究組織の動向について情報交流を行い、研究の連携を図る。

2 日時および会場

令和3年10月9日(金) オンライン開催

3 内容

(1) 北海道国語教連盟小史

北海道国語教育連盟 事業報告と計画
 北海道国語教育研究大会の今後の開催地について

(2) 全道各地の研究組織の活動状況報告

①札幌小 ②札幌中 ③石狩小 ④石狩中 ⑤小樽 ⑥旭川 ⑦留萌 ⑧檜山
 ⑨渡島 ⑩函館小 ⑪函館中 ⑫空知 ⑬胆振 ⑭十勝 ⑮釧路 ⑯根室
 ⑰宗谷 ⑱オホーツク ⑲日高

(3) 前年度の全小国研、全中国研の報告、本年度の開催について

4 地区の活動状況報告の依頼予定者(敬称略)

① 札幌小	安岡 剛	札幌市立幌南小学校	教諭
② 札幌中	上田 浩嗣	札幌市立前田中学校	教諭
③ 石狩小	湊 哲朗	北広島市立双葉小学校	教諭
④ 石狩中	本間 幹英	石狩市立花川中学校	教諭
⑤ 小樽	岡本 清豪	小樽市立北稜中学校	校長
⑥ 旭川	北川 恒	旭川市立東町小学校	教諭
⑦ 留萌	明石 貴宣	苫前町立古丹別小学校	教頭
⑧ 檜山	米谷 優	乙部町立乙部小学校	教頭
⑨ 渡島	阿部 奈央美	北斗市立上磯中学校	教諭
⑩ 函館小	五島 博司	函館市立青柳小学校	教諭
⑪ 函館中	長谷川 敦也	函館市立恵山中学校	教諭
⑫ 空知	菅原 寿一	滝川市立明苑中学校	教頭
⑬ 胆振	反田 正樹	苫小牧市立青翔中学校	教諭
⑭ 十勝	杉澤 諭	幕別町立幕別小学校	教諭
⑮ 釧路	土藏 辰弥	釧路町立遠矢中学校	教諭
⑯ 根室	打川 真由美	別海町立中西別小学校	校長
⑰ 宗谷	高橋 正一	猿払村立鬼志別小学校	教頭
⑱ オホーツク	吉崎 紘一郎	網走市立網走小学校	教諭
⑲ 日高	矢野 渉	平取町立平取中学校	教頭

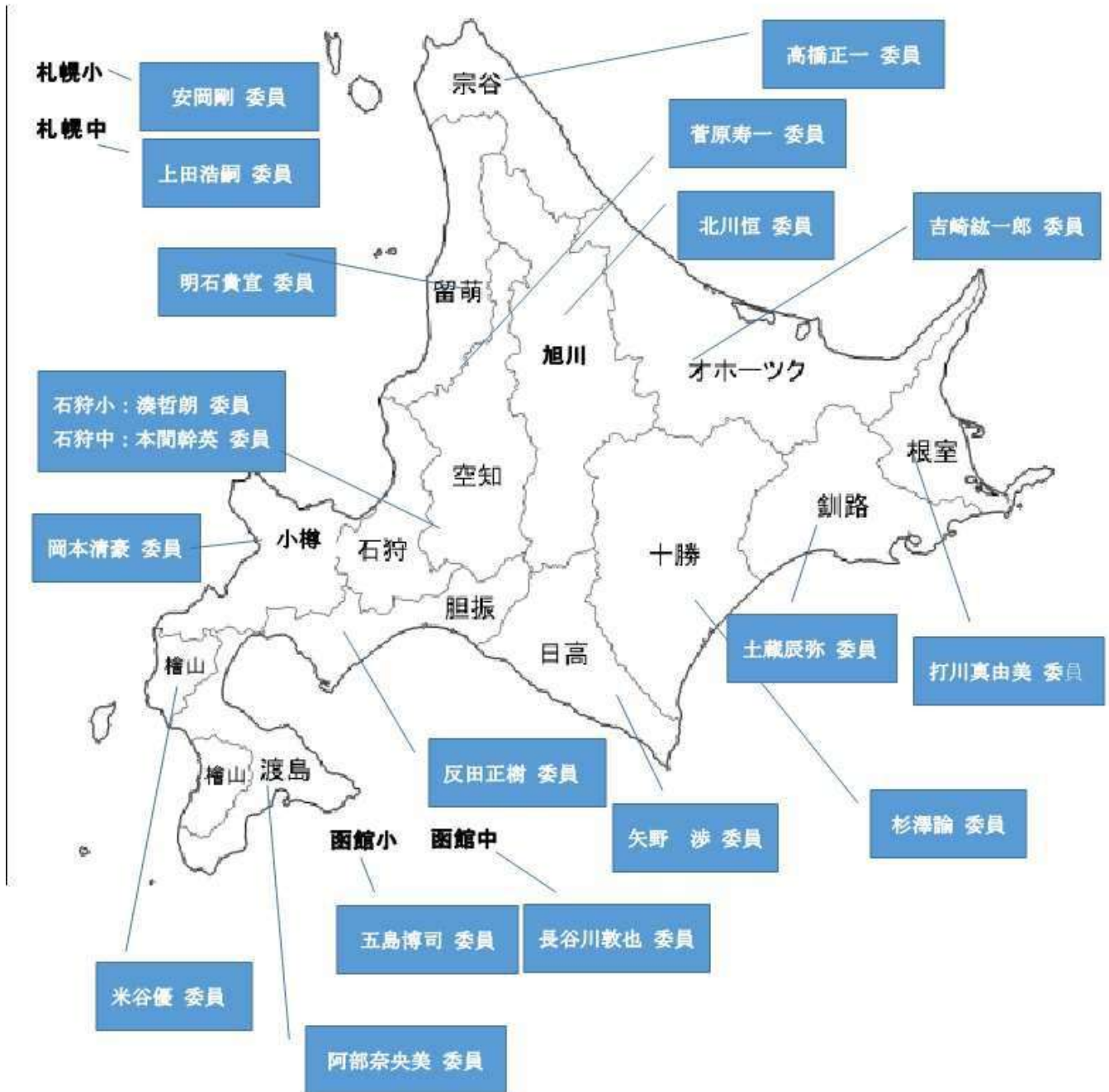
5 今後の予定

- 5月 常任委員会にて本年度の「大会会員総会」の内容について提案
 7月 「地区活動状況報告」の依頼を各地区委員に発送
 8月末 「地区活動状況報告」の集約

6 準備

オンライン開催のため、資料はPDF形式で作成・配信(紙の資料は使わない) 連盟事務局で準備
 (参考資料として次ページ以降に掲載した昨年度の地区活動資料を参照)

全道・小中のつながり



全道の国語教育研究組織の動向（順不同）

地区	研究団体名／代表者	研究内容・研究主題等	活動内容等
旭川	旭川市教育研究会 国語部 国語部部长 北川 恒 （旭川市・東町小） 研究部部长 椎名 俊文 （旭川市・神楽中）	言語活動を通して自らの考えを築き、つながる言葉の力を高める授業の創造	・会員数 167名 ・小、中それぞれ「話す・聞く」「書く」「読む～物語文・文学」「読む～説明文」「読む～伝国」の計10委員会で活動している。 ・次年度上川・旭川大会の授業者・提言者や、市内の若い教職員を対象とした「つながる研修会」、日頃の実践交流を行う「冬季研修」を開催し、研究の浸透と深化、実践力の向上を図っている。 4月 部会総会・領域別会議（中止） 5月 研究推進運営委員会（中止） 6月 研究推進運営委員会（中止） 7月 領域別会議 8月 つながる研修会 9月 研究推進運営委員会 10月 旭川市小中学校教育研究大会（中止） 研究推進運営委員会 12月 冬季研修 2月 研究推進運営委員会 ※「中止」は感染症の影響
函館 小学校	函館市小学校 国語教育研究会 会長 紺野 克典 （函館市・大森浜小長） 幹事長 福崎 梢 （函館市・大森浜小） 研究部長 糸畑 由佳 （函館市・神山小）	日常生活に生きて働く国語の力を育む授業の創造 ～「言葉による見方・考え方」を働かせた授業を通して～	・会員数 51名 ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「知識・技能」の4部会で研究を進めている。 4月 運営計画立案、研究推進計画立案、事務局会議 5月 総会研修会（紙面による情報の周知、承認）、役員会 6月 常任幹事会 6月～12月 各校にて実践を深める。 1月 冬季研修会（実践交流会） 2月 研究集録「国語教育」発刊 ※新型コロナウイルス感染予防の観点から、感染拡大がおさまるまで月例会等は見合わせる。その間、事務局や研究部より会員に向け情報提供を行うほか、各校にて各自実践を深め、その成果について冬季研修会にて交流会を行う予定。
函館 中学校	函館市中学校 国語教育研究会 会長 小林 徹也 （函館市・赤川中長）	実生活に生きてはたらく国語の力を育む授業の創造	・会員数 32名 ・4部会（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言語事項」）で活動を進めている。 ・令和2年度の活動予定

	幹事長 長谷川 敦也 (函館市・恵山中) 研究部長 森谷 剛 (函館市・附属中)		5月 総会 6月 例会 7月 例会 8月 学習会 9～11月 授業研究 12月 例会 1月 学習会 2月 会報「国語教室」発行
<u>小樽</u>	小樽市中学校 国語教育研究会 会長 黒川 裕之 (小樽市立松ヶ枝中学校)	現在テーマの設定はありません	・小樽市教育研究会中学校国語部会への講師、助言者の派遣。 ・小樽市内の公開授業、公開研究会への参加。
<u>十勝</u>	十勝国語教育 研究サークル 会長 杉澤 諭 (幕別町・白人小学校) 事務局 山根 由之 (足寄町・足寄中学校)	ことばの力を生きる力に ～言葉の力を豊かに育む 楽しい授業の創造～	本サークルは、55名の教職員で構成されている。十勝、そして帯広市の国語が大好きな先生の集まりである。研究テーマを設定し、部会ごとに研究推進している。その他にも、日々の実践を交流したり、研究会等への参加促進を行っている。 ・第47回小学校授業研究会 → 中止 ・第31回中学校授業研究会 → 中止 ・第58回一泊研修会 → 中止 ・第50回サークル合同研究会 → 中止 ・研究紀要「1年間のあゆみ」発刊→中止 ・会報「ことば」の発行 → 中止 ※今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、活動を休止している。現在、オンラインでの研修会を模索しており、目処がつき次第、試験的に開催する予定。
<u>留萌</u>	留萌地方 国語教育研究会 会長 熊倉 一弘 (初山別村立 初山別中学校 校長) 事務局長 明石 貴宣 (苫前町立 古丹別小学校 教頭) 企画研究部長 大内 崇 (留萌市立 留萌中学校 教諭)	「あい」を高める国語の授業の創造 ① I (私) : 「知識・技能」を高めるために、子ども一人一人の国語の力を高める。 ②～合い(学び合い・伝え合い) : 「思考力・判断力・表現力等」を高めるために、学び合い・伝え合いを充実させる。 ③愛(愛情・愛着) : 「学びに向かう力・人間性」を高めるために、子どもが言語活動に親しみをもつ	・7月8日 総会(紙面) ・10月上旬 留萌地方国語教育研究会実践交流研修会小平集会の開催 ・11月12日 留萌地方国語教育研究大会天塩大会(会場:天塩小学校)の開催 ・会報『るこく』発行(年3号発行) ・令和2年度は留萌管内小中学校教職員37名で活動、年会費2,000円 ・『国語教育実践記録集 第43集』年度末に発刊

<p><u>根室</u></p>	<p>根室管内 国語教育研究会 会長 上原 哲朗 (根室市・花咲小校長) 事務局長 大場 佳 (別海町・別海中央小)</p>	<p>国語科で育む資質・能力と授業改善に係る研究</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・総会 ・研究会 ・各種研究会参加（授業者、研究協力者等） ・会員の公開授業、研究協力 ・教育フェスティバルにおける実践発表 ・会員数 30 名 <p>※上記は、昨年度の実績。今年度は会議、研修、実践交流のほとんどが中止、自粛となっている。</p>
<p><u>空知</u></p>	<p>空知 国語教育研究会 会長 石成 牧子 (深川市立深川中学校長) 事務局長 菅原 寿一 (滝川市立 明苑中学校主幹教諭) 研究部長 岩城 勇太 (上砂川町立 上砂川中学校教諭)</p>	<p>伝え合う活動を通して、確かな力を育む授業の究明</p>	<p>本年度の活動</p> <p>9月29日 空知教育センター研修講座へ講師の派遣</p> <p>10月～12月 オンライン上での実践交流予定</p> <p>2月 冬季研修会（予定）実践交流と令和5年度全道大会開催に向けて</p> <p>※今年度はなかなか一斉会合を開催することができず、管内的な研修会はもとより、3年後の全道大会開催に向けての準備も予定していた動きが思うように取れずに苦心している。しかし、事務局や研究部を中心に可能な範囲で情報を交換しながら発信する準備を進めている。</p>
<p><u>五狩 小学校</u></p>	<p>石狩管内教育研究会 国語（小）部会 部長 山本 麻千子 (江別市・大麻小) 事務局長 伊賀 信之 (北広島市・西の里小)</p>	<p>考えの形成につなげる新しい時代の国語教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実技理論研修会 青木伸生氏（筑波大付属小学校教諭） 今年度は、中止。 ・石教研二次研究協議会 10月18日（金） 今年度は、中止。 <p>今年度の活動に関しては、2年研究の活動を3年の研究とし、研究の初年度という位置付けとした。新型コロナウイルスの影響により、実技理論研修会、石教研二次研究協議会等が中止になったことや教科書が新しく光村図書に変更したことから、今年度に関しては、各市町村サークルに指導案を作成していただき、それを指導案集として次年度の研究に活用していくことにしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会員数 171 名
<p><u>五狩 中学校</u></p>	<p>石狩管内教育研究会 国語（中）部会 部長 梅原 健史 (千歳市・勇舞中学校) 事務局長 本間 幹英 (江別市 江別第二中学校)</p>	<p>研究主題：主体的な思考・判断・表現等を伴う学びの創造～記述と対話を中心とする言語活動の工夫を通して～</p> <p>研究の視点 (1) 「生徒に身につけさせたい力」の明確化、及びその力の育成</p>	<p>部会員の取組内容 前期（第二次研究協議会開催予定日だった10月16日まで）は、部会員が研究主題に沿ったレポートを作成し、市町村単位で交流を行う。 各市町村では、推進委員を中心にレポート発表・協議（交流）をし、成果と課題を明らかにする。各市町村での取組後は、実践資料集を作成して各部会員が今後の授業にいかすとともに明らかにされた成果と課題を石教研情報・部会だより等で来年</p>

		<p>に有効な言語活動の在り方</p> <p>(2) 単元を通して「力の育成・豊かな言語活動の醸成」を図るための指導の在り方</p> <p>(3) 「力の育成・豊かな言語感覚の醸成」に対する評価の在り方</p>	<p>度につなげていく。</p> <p>後期(10月16日以降)は、下記の予定で理論研修会を開催する。</p> <p>日時 11月20日(金) 13:00~15:00</p> <p>講師 梅村 武仁 氏</p> <p>「主体的な学びを深める国語授業の在り方」(仮)</p> <p>場所 石狩教育研修センター</p> <p>レポート集の構成</p> <p>○一人1レポートの提出</p> <p>〈様式〉A4サイズ・縦置き・横書き 両面印刷で120部</p> <p>〈内容〉個人レポートについては「教科書教材(学年ごと)についての実践研究」を原則とするが、部会員の研究に資するものであれば「教科書教材以外についての実践研究」の内容も可とする。また過去の他者レポートの追実践でも構わない。その場合、基にしたレポートを明記する。さらに今年度は、「新型コロナの影響下における、感染症対策を講じた形での授業」について『コロナ禍の中で、普段どのように授業を行っているか』についての実践レポートも可とする形で進める。レポートは「単元を通して生徒に身につけさせたい力」「単元の指導計画(略案)」「実践の振り返り」の3つをまとめる。</p>
宗谷	<p>宗谷教育研究 連携会議 国語部会</p> <p>部長 高橋 正一 (猿払村・鬼志別小)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・宗谷管内の先生方の実践交流の場をつくる ・管内10市町村のサークルと連携し、情報交流・共同研究をすすめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症拡大防止の観点から、例年実施しているセミナーや分科会は中止 ・コロナ禍の中でも部員の交流を図る活動を検討中 ・8月下旬 総会を紙上実施 ・部会情報の発行 ・会員数 79名
札幌 小学校	<p>札幌市教育研究推進事業 小学校国語</p> <p>研究部会長 猪股 嘉洋 (札幌市・新陵小長)</p> <p>研究部長 安岡 剛 (札幌市・幌南小)</p>	<p>学び合いを深めることで、学ぶ力を育成する授業の創造</p>	<p>10の行政区ごとに全市研究テーマに基づいた授業づくりを通して研究を進めている。2年計画を予定していたが、コロナ禍のため3年計画とした。2年目の今年度は、コロナ禍でも「授業改善」「人材育成」「分かる・できる・楽しい授業づくり」の充実のため、国語担当の校長先生を含めた書面会議を行ったり、国語部員が全市研究テーマに沿って行った授業を部長が集約し、活動を広げたりしている。</p> <p>①「授業改善と人材育成」</p> <p>②「分かる・できる・楽しい」授業</p> <p>③教育課程編成の手引(札幌市教育委員会発行)の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6/9 中止→春の研究集会…授業公開・実践交流等 ・10/13 中止→秋の研究集会…授業公開・実践交流等 ・2/2 中止→全市学習会…手引や新学習指導要領についての講演等 ・中止→全市研究部会4回 各区の研究推進の成果や課題の交流・協議等

			<ul style="list-style-type: none"> ・中止→各区研究部会 12 回 春・秋の研究集会に向けて指導案検討、準備、日常実践の交流等 ※過去の各区の指導案や学習会資料については、校務支援キャビネットより閲覧でき日々の実践に役立てることができる。
札幌 中学校	札幌市教育研究推進事業 中学校国語 研究部会長 三分一 晶 (札幌市・日章中長) 代表幹事 小熊 剛彰 (札幌市・あいの里東中)	基底研究主題 「主体的・対話的で深い学びが生まれる国語の授業」 研究副主題 「学習課題が生まれる言語活動と課題解決に向けて自分が工夫できる国語科の授業」 この他に 10 の行政区ごとに、研究主題を設定し、授業研究を進めている。	2 年継続研究の 2 年目 ・4/20 運営委員会③ 昨年度の成果を受けて令和 2 年度の研究推進体制等に関する事項の協議。 ・6/9 春の研究集会 (各区公開授業) ・10/13 秋の研究集会 (各区公開授業) 授業公開、実践交流、研究討議等による検証、集約。令和 3 年度の研究について協議、再構築。(公開授業のための指導案検討などの会合を、地区ごとに年 9 回行う) ・11/10 校内研究推進に関わる研修会 校内研究の推進に関わる講演、情報交流 ・2/8 運営委員会④ 令和 2 年度の成果と課題、令和 3 年度以降の研究推進の見通しの交流、協議。 ・会員数 318 名 (市内中学校国語科教員) ・懇親会について…退職される先生を囲む会 (2 月上旬) ※以上の予定であったが、今年度は全体で集まっていた会議、集会等は中止
釧路	釧路国語教育研究会 会長 松岡 伸之 (釧路市立北中学校長) 事務局長 太田 諭 (標茶町立 中茶安別小中学校教頭) 研究部長 土藏 辰弥 (釧路町立遠矢中学校)	全道大会に向けた研究理論の構築と、授業の実践	5 月 定期総会 (中止) 7 月 全道大会主題および研究理論の策定開始 8 月 夏季研修会 (中止) 1 月下旬 冬季研修会 ※研究部会及び事務局会議を、夏季・冬季研修会の前後を中心に年間 7 ～ 8 回程度開催。 ※広報部発行の会報「ひこばえ」を年間 3 ～ 4 号程度発行。
日高	日高管内 国語教育研究会 会長 大石 恭義 (浦河町立 浦河東部小学校)	○言葉の力が身に付く授業の創造 ①新指導要領の主旨に沿った授業づくりのあり方に係る研究 ②「学びに向かう力」の評価方法についての研究	1 管内研究大会の開催 (1) 研究授業 (2) 実践発表 2 学習会の開催 年間 3 回の開催 3 国語授業実践交流通信「ことのは」の発行 (通年) (1) 実践に係るレポートの交流 (2) 年間 3 回を予定
檜山	檜山管内小中学校 国語教育研究会	確かな言葉の力を育む授業の創造	・7 月 事務局研修会 ・8 月 夏季学習会 ・1 月 冬季学習会 ・2 月 事務局研修会 ・会員 16 名

	<p>会長 晴山 泰文 (上ノ国町・河北小長)</p> <p>事務局長 西村 昭彦 (厚沢部町・厚沢部小)</p> <p>研究部長 伊藤 邦明 (乙部町・乙部中)</p>		※今年度、研究大会等は活動中止
<u>渡島</u>	<p>渡島国語教育研究会</p> <p>会長 蛭子 友正 (松前町・松前中長)</p> <p>幹事長 阿部 奈央美 (北斗市・上磯中)</p> <p>研究部長 西村 駿 (森町・森中)</p>	<p>言葉を大切にして読み、自分の思いを広げ・深める子どもの育成</p>	<p>・会員数 33 名</p> <p>・夏期と冬季学習会において、実践交流を行っている。</p> <p>・発問の精選と読みを深める指導過程について授業研究を進めている。</p> <p>4 月 総会・学習会</p> <p>8 月 学習会</p> <p>9～11 月 授業研究</p> <p>12 月 学習会</p> <p>3 月 研究集録「ことば」発行</p>
<u>オホーツク</u>	<p>網走国語教育研究会</p> <p>会長 潮田 信 (北見市立西小学校校長)</p> <p>研究部長 土谷 亮祐 (湧別町立湧別小学校)</p> <p>事務局長 尾中 基浩 (大空町立東藻琴小学校)</p>	<p>研究主題 豊かな言葉がひびき合う中で、確かな言葉の力を育む国語科授業の創造</p> <p>→新学習指導要領で示された、国語科における「見方・考え方」を働かせながら、言葉にこだわって思考したり伝え合ったりする授業とはどのような授業かを追求する。</p>	<p>① 4 / 2 5 令和 2 年度 総会 (中止、紙面にて承認を受ける)</p> <p>② 第 4 4 回 網走国語教育研究会・公開研究会の開催</p> <p>③ 会員冬季研修会の開催 期日：1 月下旬～2 月上旬 会場：網走ブロック</p> <p>④ ミニ網国研の開催</p> <p>⑤ 実践記録の収集</p> <p>⑥ 研究集録の発行</p> <p>※②～④は、新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら開催の有無、開催方法を検討する</p>

第77回北海道国語教育研究大会釧路大会

開催概要(案)

- 1, 主催 北海道国語教育連盟
釧路国語教育研究会
- 2, 後援 北海道教育委員会 釧路市教育委員会 釧路管内町村教育委員会連絡協議会
(予定) 釧路校長会 釧路市小中学校校長会
釧路小中学校教頭会 釧路市小中学校教頭会 他
- 3, 主題 「言葉と主体的に向き合い続ける子どもの育成」
～「縦」・「横」・「人」がつながる国語科授業を通して～
- 4, 期日 令和4年10月7日(金)
- 5, 会場 《小学校会場》 釧路市立 小学校(未定)
《全体会場及び中学校会場》 釧路市立景雲中学校(予定)
《情報交換会》 釧路市内ホテル(未定)

6, 公開授業・分科会

【小学校】

話すこと・聞くこと	2授業1分科会
書くこと	2授業1分科会
読むこと	2授業2分科会
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	1授業1分科会

【中学校】

話すこと・聞くこと	1授業1分科会
書くこと	1授業1分科会
読むこと	1授業1分科会(2授業2分科会)
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	1授業1分科会

※小学校の授業に関しては低学年・高学年の別よりも、内容的な面での区別を優先

例) 「話すこと・聞くこと」→話すこと、聞くこと、話し合うこと

「読むこと」→文学的文章教材、説明的文章教材

※書写については、分科会を設定しない方向

7, 日程

		10月7日(金)											
		小・中共通											
		8:30	9:00	9:50	10:10	11:50	12:40	13:45	15:15			18:30	20:00
中学校	受付	公開授業	休憩 移動	分科会 I	昼食 休憩	開会式 主題解説	移動	分科会 II	移動	閉会式	情報交換会 (レセプション)		
小学校	受付	公開授業	会場 移動	分科会 I	13:30		15:00	15:55					
		8:50	9:35	10:15	11:50								

※授業終了後、小学校は全体会場（釧路市立景雲中学校）に移動

・小学校：釧路市立 小学校（未定）

・中学校：釧路市立景雲中学校（予定）

※情報交換会（レセプション）は、未定（釧路市内ホテル）

8, 諸費

*大会参加料（大会要項・当日資料等）	5, 000円	※参加者全員
*研究集録	1, 500円	※希望者
*弁当	1, 000円（お茶含む）	※希望者
*北海道国語教育連盟会費（新規会員申込）	3, 000円	※希望者（集録・機関誌送付）
*情報交換会（レセプション）	5, 000円	※希望者

9, 式次第

《開会式》

進行：大会事務局長

- 1, 開会の言葉
- 2, 主催者挨拶
 - (1) 大会長（北海道国語教育連盟委員長）
 - (2) 大会運営委員長（釧路国語教育研究会会長）
- 3, 来賓挨拶
 - (1) 北海道教育庁釧路教育局長
 - (2) 釧路市教育委員会教育長
 - (3) 釧路管内町村教育委員会連絡協議会会長
- 4, 来賓紹介
- 5, 閉会の言葉

《大会会員総会》

進行：北海道国語教育連盟

- 1, 開会の言葉
- 2, 連盟委員長挨拶
- 3, 会務報告
- 4, 活動状況報告
- 5, 閉会の言葉

《閉会式》

進行：大会事務局長

- 1, 開会の言葉
- 2, 大会長挨拶（北海道国語教育連盟委員長）
- 3, 大会運営委員長挨拶（釧路国語教育研究会会長）
- 4, 次期開催地挨拶（空知大会）
- 5, 閉会の言葉

言葉と主体的に向き合い続ける子供の育成 ～「縦」「横」「人」がつながる国語科授業を通して～

1 主題設定の理由について

1. 時代や社会の要請から

学習指導要領の平成29年改訂において、現在の子供たちが成人して社会で活躍する頃には、厳しい挑戦の時代を迎えることが予想された。そのような時代の中であって、学校教育には「子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくこと」や、「様々な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすること」、「複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすること」が求められていると、されている。

国語科の活動は「国語を正確に理解し、適切に表現する資質・能力」を育成していくとされている。その資質・能力とは、決して学校教育・国語科教育の中で完結するものではない。特に変化し続ける世の中においては、言葉とのかかわり方についても常に変化し続けていく可能性は高い。つまり、卒業し社会に出た後も生活の中で自身が主体的に言語に向き合い、言葉にこだわりをもって使っていく必要があるということである。

このような要求のある中において、国語科として、「言葉と主体的に向き合い続ける子供の育成」を研究の主眼として設定した。変化し続ける社会の中で、自らが持つ言葉の力を磨き続けるために、自分から言葉と向き合い続けることができる人間の育成を目指すこととした。

2. 釧路管内の子供たちの現状について

令和元年度全国学力・学習状況調査によると、釧路管内の成果と課題は以下のようになっている。

【小学校国語科】

年々改善傾向にあり、令和元年度には全ての領域において全国平均を上回った。身に付いた国語の力を各教科等で生かす指導の工夫をすることが大切である。

「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思う」と解答した学校の割合が96.3%であるが、児童の割合は78.0%である。

【中学校国語科】

全領域に置いて全国平均を下回っている。各学校に置いて生徒の解答状況等を詳細に分析し、指導に生かす必要がある。

「国語の問題では、解答を文章で書く問題について、最後まで解答を書こうと努力した」と回答した生徒の割合は全国と比べて8.9ポイント低い。

【質問紙から】

学校の授業以外の1日あたりの勉強時間が全国よりも低い結果になっている。

学校図書館や地域の図書館を活用している児童生徒が全国よりも低い結果となっている。

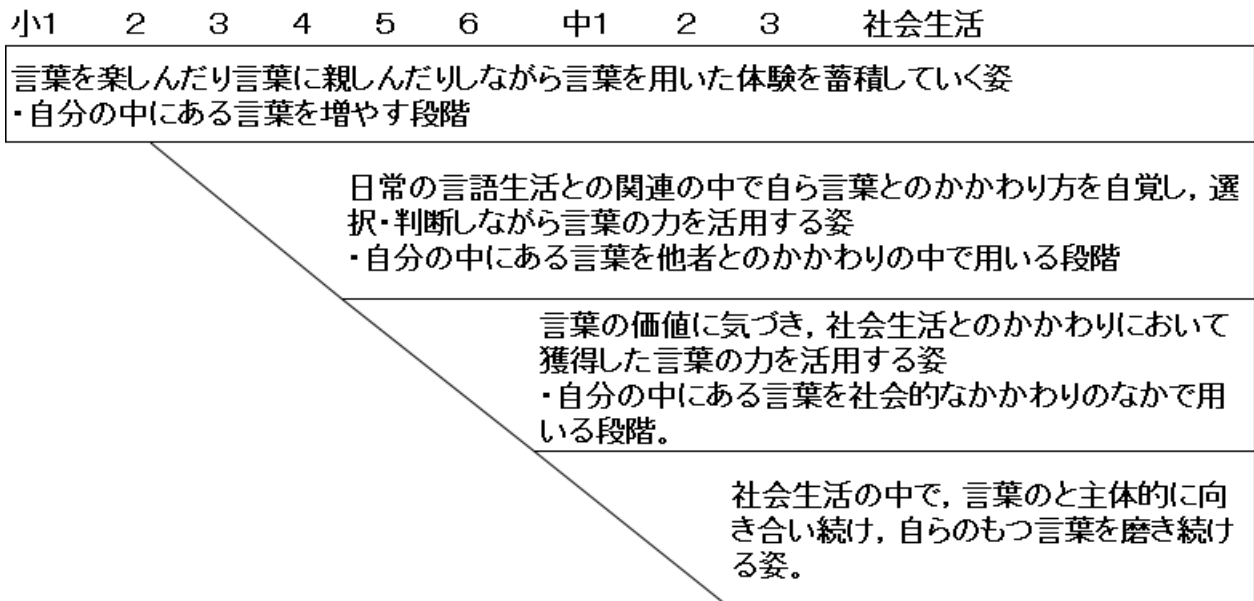
(「平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査釧路管内の成果と課題」より抜粋)

上記の結果を踏まえると、「課題や問題に対して、自ら進んで取り組むこと」や、「課題の解決方法を自分で模索すること」などの力を身に付けさせる必要があると考える。

国語科においては、「自分から言葉と関わろうとする姿勢」を育成していくことが必要である。どのような種類・方法で言葉を調べたり、活用したりするのか。それらを最終的には自分で決めていかなければならない現代社会である。国語科教育の中でもそれらの経験を計画的に積み上げていくため本研究が重要であると考えられる。

2 研究の内容・視点

1. 発達段階に応じた、「言葉と主体的に向き合う姿」



上の図は、本研究での、発達段階における「言葉と主体的に向き合う姿」を示したものである。この内容が学年の枠組みを越え、「つながり」の中心としてあるものである。

小学校低学年段階では、「見たことや知らせたいことを記録し説明や紹介をする」「体験したことを報告する」など、子供が言葉を楽しんだり言葉に親しんだりしながら言語活動を体験することを通し、日常生活に必要とされる簡単な対話、記録、報告、説明、感想などの経験を積みながら言語能力の幅を広げるなど、言葉を楽しんだり親しんだりしながら言葉を用いた体験を蓄積していく姿を目指していく段階である。

小学校中学年段階では、調査・観察・実験したことを記録・整理し「説明文」や「報告書」などといった表現様式にまとめたり、資料を提示しながら発表したりするなど、日常的で身近な言語活動において想定される場面や状況との関係性を見出しながら、日常の言語生活との関連の中で自らの言葉との関わり方を自覚し、選択・判断しながら言葉の力を活用していく姿を目指していく段階である。

小学校高学年段階から中学校段階にかけては、討論・解説・論述・鑑賞などの子供にとって身近な日常生活から離れた、社会生活において想定される言語活動において、獲得してきた言語能力を基盤として言語の正誤・適否・美醜などの言語感覚を含む言葉の価値に気づき、社会生活とのかかわりにおいて獲得した言葉の力を活用する姿を目指していく段階である。

そして、これらの言葉に向き合う姿が達成されていくことによって、自身が社会生活の中に身を置いた時にも、自らの持つ言葉の力や獲得している言語について自覚し、常に改善していこうとする言葉と主体的に向き合い続けていく姿が完成されるものであると設定した。

2. 「縦」「横」「人」のつながりについて

各発達段階における「言葉と向き合う姿」を達成するには、小中9年間を見通す「縦」のつながり、他領域や他教科との「横」のつながり、自らの考えを広げたり深めたりする「人」のつながりをしっかりとらえることが重要であると、本研究においてはとらえている。

特に、それらについてより具体的にイメージしやすくするため、釧路国語教育研究会では「釧路プラン2022」を作成していくこととした。

これまでの釧路における小中9年間を見通すことのできる資料を作成してきた積み重ねを生かし、その単元が何とつながりをもっているのかを示す資料とし、「つながる授業」を創造する目安として活用していきたい。

以下には、本研究会で設定する「縦」「横」「人」のつながりについて説明したい。

①「縦」「横」のつながり

「縦」のつながりとは、小中9年間を通して「国語科の授業において、これまでに得てきた知識や言葉の力」と、「これから先の国語科の授業の中で得ていく知識や言葉の力」である。

課題に対して、過去に自分が学んできた言葉の力が生かされるのか。どんな言葉の力を身に着ければ課題を解決できるのか。それらを自覚することによって、過去の自分の学びと、現在の自分、そして未来の自分がつながるのではないかと考える。

「横」のつながりとは、他教科や他領域の学びを現在の自分の学びに活かしたり、自分が国語科の授業で学んだことが他領域の学びや他教科の学び、日常生活の学びに生きたりすることである。特に国語科の他領域とのつながりを意識することで、より幅広い国語の力を得ることができるものとする。

この「縦」と「横」のつながりは、互いに密接に関係しあっており、不可分なものである。例えば「過去に他教科で得た知識が、国語科の活動に活かされる」などの場面は、もちろんあってしかるべきものである。「縦」「横」という考えに固執することなく、子供たちの中でのさまざまなつながりを生み出していきたい。

②「人」のつながり

「人」のつながりとは、自らの考えに変容をもたらすような、他者との交流を表す。ここでの「他者」とは、決してクラスメイトや友人のことを表すのではなく、教師や文章の作者、先人の知恵などでもよい。様々な自分以外の考え方に触れることによって、その考え方を広げ、深めていくことができると思う。

3. 「つながる国語科授業」を実現するための手立て

上記のようなつながりを生む＝「つながる」授業を作り出すための手立てとして、以下の手立てを中心に据えて授業づくりを考案していきたい。

手立て1：新たな問いや気づきを生み出す「見通し」を持てる授業づくり

これまででも、国語科の授業だけでなく様々な場面で「課題とまとめ・振り返り」の大切さについては提唱されている。しかし、今後社会生活の中では課題に対して、どのような言葉の力を発揮すればいいのかを考え続けていかなければならない。そこで、本研究においては課題に対する振り返りだけではなく、その単元で得た力が何に生きるのか、どんな場面で活用できるのかを考えることのできる授業づくりを行う。

もちろん、単元序盤においてその単元でどのようなことを学ぶのかという見通しを持たせることは必要である。加えて、単元の終盤だけでなく様々な場面で自身の学びを振り返る場面を設定し、「今の自分の取り組みは、課題に対して効果的なものなのか」を考えられるようにしたい。それによって、新たな問いや気づきを生み出すことができるだろう。

また、単元終盤においては単元全体の学びを振り返るとともに、自身が獲得した知識が「縦」や「横」のつながりの中でどのように使われるのか、どのように使うことがより良い言葉の活用方法なのかを考えられる場面を設定する。それらの経験を積むことによって、「縦」や「横」のつながりをもとにして、社会生活の中での言葉の活用につなげる力が身に付くだろうと考える。

さらに、このような学年の中での単元のつながりが、全体に広がっていくことで小中9年間がつながる国語教育になっていくものだと考えられる。

手立て2：考えの変容が自覚できる「交流場面」の設定

授業の中で自分の考えを持つ場面では、自分一人の考えだけでは解決できない場面や、自分の考えだけでは浅いことが考えられる。そこで、個人思考にくわえて他者との交流場面を設定することで、子供の考えに変容をもたらしたい。

この場面での他者は、先述の「人」とのつながりのように、「クラスメイトとの話し合い」だけを指すのではない。「教師による意図的な問い返し」や、「先人の考え」、「同じテーマに対する反対意見の資料の提示」なども考えられる。

これらの他者とのつながりの中で、自分の考えが変化したり、より良いものに刷新されたりする経験を通して、「人」とのつながりの有用性を理解し、社会生活の中での問題を解決する力へとつなげていきたい。

役員選考報告

北海道国語教育連盟 役員（推薦）

役職	氏名	所属校	職	備考
委員長	大田 利幸	札幌市立陵北中学校	校長	留任
副委員長 6名	松岡 伸之	釧路市立景雲中学校	校長	留任
	紺野 克典	函館市立大森浜小学校	校長	
	木村 佳子	札幌市立中央中学校	校長	
	神林 宏行	旭川市立西神楽中学校	校長	再任
	石成 牧子	深川市立深川中学校	校長	新任
	西村 裕子	札幌市立藻岩小学校	校長	
事務局長	横道 幸紀	札幌市立澄川中学校	校長	留任
会計局長	小菅 猛雄	札幌市立新発寒小学校	校長	新任

令和3年5月15日

上記の通り、

令和3年度北海道国語教育連盟役員の報告をもって、承認とさせていただきます。

選考委員長 常任委員

猪股嘉洋

(札幌：新陵小学校長)



令和3年度 北海道国語教育連盟 常任委員会 各位

顧 問 委 嘱

北海道国語教育連盟 顧問

(前役職)	氏 名	退 任 事 由	委 嘱
(副委員長)	林 貞年	定年退職により、退任。	顧問

令和3年5月15日

上記の名簿の通り、北海道国語教育連盟顧問に委嘱いたします。

北海道国語教育連盟
委員長 大田 利幸
(札幌：陵北中学校長)